



校舎15号館と希望の森

日本大学
国際関係学部

校友会々報

第 52 号

静岡県三島市文教町 2-31-145
日本大学国際関係学部
校友会

令和三年度 常任幹事会・幹事会

◎常任幹事会

令和三年六月五日（土）一六時
三〇分から、国際関係学部本校
舎一五号館一階一五二二教室にお
いて開催された。横山雅人会長
の挨拶の後、会長進行により議事
に移り、幹事会提案事項の内容につ
いて各担当から詳細内容の報告が
あり検討審議された。

◎幹事会

令和三年六月五日（土）一七時一〇分から、常任
幹事会に引き続いて幹事会が開催された。江本博
勝副会長の司会で進行され、黙禱に引き続き横山
雅人会長の挨拶の後、議長団・書記の選出に移った。
議長には日吉智常任幹事、副議長には田代稔幹
事、書記には深澤ほの香常任幹事がそれぞれ選出
され、次の議事が検討された。

- 一 令和二年度事業報告
- 一 令和二年度決算報告
- 一 監査報告

令和三年度事業計画（案）

- 一 令和三年度新幹事に關する件
- 一 三島学園開設七五周年記念事業に關する件
- 一 富樫祭物産展実行委員に關する件
- 一 ホームカミングデー実行委員に關する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について
- 一 校友会会報（第五十一号）原稿依頼について
- 一 その他 銀杏並木清掃作業

田中由雄幹事長から、令和二年度事業報告が引
き続き塩谷典子会計担当から令和二年度決算報
告が報告され、藤本文彦会計監査から監査報告が
あり、それぞれ承認された。

続いて令和三年度事業計画（案）については田中
由雄幹事長からまた令和三年度収支予算（案）につ
いては塩谷典子会計担当から提案説明がなされ審
議の結果、議案とも承認された。

令和三年度新役員には、桜文会の諏訪部湖昭
子・斎藤千鶴子両幹事が常任幹事に、卒業に当た
り校友会会長賞及び優秀賞を授与された者並び
に同窓会から推薦された者で国際関係学部から山
下鉄平以下八名、商経科同窓会から山本譲治以下
六十九名、桜栄会から板橋裕也以下三名が新幹事
として事務局から推薦があり承認された。

三島学園開設七五周年記念事業については、田中
由雄幹事長から令和三年度が該当年度になるため

検討委員会を設置したい旨の提案
がなされた。基金も別紙のとおりと
なっている。横山雅人会長から検討
委員会メンバーを早急に推薦するこ
ととなった。

富樫祭物産展実行委員について
は田中由雄幹事長から令和三年十
月三十日・三十一日の両日開催され
る第七回富樫祭に校友会主催によ
る地元特産物等販売の物産展を出
店する目的で実行委員会を設置し
たい。委員会構成メンバーは昨年度
委員の継続としたい旨の提案がな
された。

次にホームカミングデー実行委員
会については、田中由雄幹事長から
毎年恒例の富樫祭及び三島大祭に
卒業生と在学生の絆を深める目
的で実行委員会を設置したい。委
員会構成メンバーは昨年度委員の継
続としたい旨の提案がなされ審議の
結果、三案とも承認された。

国際関係学部校友会関係物故
者については田中由雄幹事長から令
和二年六月から令和三年六月まで
に七名の会員の方がご逝去された
旨事務局に連絡を頂いた会員を一覧
表とした。

国際関係学部校友会役員並びに
会員の令和二年度正会員加入状況
について田中由雄幹事長から報告が
なされ本年度も正会員一〇〇名達
成を目標として実施中であり一人
人でも多くの役員の加入登録をい
ただきたい旨の依頼があった。また
新規加入者大歓迎です振込用紙は
きずな添付されている。

会報（第五十一号）発行については
田中由雄幹事長から昨年度同様に
学部から渡邊学部長・相良事務局
長、校友会から横山会長、弓場副会
長、神戸・藤本常任幹事、柴田顧問
並びに山形県支部役員から一名の
方をお願いしたい。また、在学生で
校友会優秀賞授与者個人二名と各
学生団体三名の委員長に原稿を依
頼した旨の報告がなされた。

「卒業式の今」



国際関係学部校友会会長

横山 雅人

昨年、第五十一号の会報原稿を書いている時にはコロナ禍が

こんなにも長く続くとは考えもしませんでした。校友の皆様はいかがお過ごしでしょうか？平素は国際関係学部校友会の活動にご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

今年度は常任幹事会・幹事会を三島キャンパスで開催し、審議事項はすべて承認されました。総会・懇親会は中止し、昨年同様に会則第五章第十二条第三項（常任幹事会及び幹事会）をもって総会にかえるにより承認となりましたことをご報告いたします。

今年度も学部校友会の行事は予定通りに行えていませんが、きずな清掃だけは実施しています。この清掃活動を通して校友と接点があるので始めてよかったと思います。コロナ禍ですが、なるべく活動を続けてい

きますので校友の皆様の参加を待ちしております。

私は地元三島の小学校の運営に携わっています。先日のお会で卒業式の卒業生の服装と写真撮影についての話がありました。ここ数年で卒業生の袴の着用が増えてきています。全国的にも話題になってきているようです。経済的に着せてあげられない家庭もあり、不公平感がでています。現場では着崩れを先生が直したり、歩くときに躓いたり大変なことが多いと聞きました。でも友だちが着てくるから着たい子どもや着せたい保護者が多いそうです。そこで集合写真の問題が出てきました。服装が様々になるので集合写真は撮らないでほしいという保護者の希望が出てきたのです。ここ数年は集合写真を撮らずに式の終了後に式場を開放して各々で写真を撮っています。私は小学

校で集合写真がない卒業式は寂しい、撮った方がよいのでは、袴は禁止にしてはどうかとお伝えしました。今年度は袴をOKとするが集合写真は保護者にアンケートを取り、一人でも反対者がいれば集合写真は撮らないようにするそうです。市内には袴を禁止にしている学校もあります。今年度の保護者は禁止にするなら来年度からにしてほしいと言います。学校も保護者に対して強制的な対応はできないのだそうです。小学校を制服にすればよいのですが、それはそれで問題があり実現が難しいところであります。卒業式は教育の一環として行われるものであり、式にふさわしい服装を奨励する。（このことをふまえ、それぞれの家庭で話し合っ

ると聞きました。私の頃はほぼ全員が出席していたと思います。卒業生に聞いたわけではありませんが、大学への愛着が薄くなってきているのか、仲間意識が薄くなってきているのか、親しかった友人の写真があれば卒業アルバムはいらないという話も聞いたことがあります。会費と時間がその価値に見合っていないか。この流れで校友会の会員に

「ご挨拶」



国際関係学部学部長

渡邊 武一郎

秋らしさの深まる季節となりましたが、国際関係学部校友会の皆様にかかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、日本大学国際関係学部、短期大学の研究・教育活動に対し、ご支援・ご助力賜りまして、誠に有難うございます。

今年度は国際関係学部にて六六七名、短期大学部ビジネス教養学科に一〇七名、食物栄養学科に八四名、専攻科食物栄養専攻に九名、大学院国際関係研究科には七名の新入生を迎える事ができました。これに同じキャンパスにある付属三島高等学校の

なり、活動のご案内をしていくようになります。

次世代を担う校友を増やしていくことが大きな課題となっています。校友会やその活動の発信、参加しやすい環境作り、活性化のための工夫を考えていく時になっていきます。今後、益々のご協力をお願いいたします。

結びに、皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

五八八名、三島中学校の五三名を加えると三島キャンパス全体で一、五一五名の新入生を迎えることが出来ました。全ての中学生、高校生、大学生、大学院生を合わせると約五、〇〇〇人となり、静岡県下では最大規模のキャンパスとなります。

この四月から国際関係学部は政治学の佐野秀太郎先生、金融論の武田英俊先生、経営学の金崎賢希先生、心理学の有木永子先生、比較文化論の松本佐保先生、地域振興論の宮城博文先生を、そして短期大学部ビジネス教養学科に観光ビジネス論の永田美江子先生と、多くの新しい先生方をお迎えしました。これにより、国際関係学部、短期大学部ともに、教育・研究が益々充実しています。

一方で、三島キャンパスでは令和三年度も昨年度に続いて新型コロナウイルス感染症と格闘する日々が続いています。中学校・高校・短期大学部・国際関係学部の全てで教職員が一丸となり工夫をしつつ、生徒・学生の学びを止めない取り組みに日々悪戦苦闘しています。

国際関係学部・短期大学部で

は授業は基本的オンラインを基本としながら、一部の授業を対面としています。中学校・高校の一学期は対面での授業を実施しましたが、二学期は対面とオンラインの併用となりました。生徒、学生の通学区域、さらに静岡県・文部科学省と管轄機関の違いもあり、同じキャンパスにありながら中学校・高校・大学・大学院で異なる対応となっています。大学の学外研修やインターンシップも中止せざるをえませんでした。

学生たちは楽しい大学生生活を送ることができず、辛く悲しい思いをしたことと思います。このような状況下でモチベーションを維持するのは難しいでしょう。しかし、三島キャンパスの学生なら今回の試練を乗り越え成長し、コロナ禍でも諦めることなく各自が将来に向けて希望と夢を持ち精進を続けていることと確信しています。日本大学、そして国際関係学部・短期大学部では、教職員が一丸となり学生の皆さんを全力でサポートしています。

国際関係学部校友会の皆様方に於かれましては、このような

状況にご理解を賜り、今後も引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「ご挨拶」



国際関係学部事務局長

相良 浩三

日本大学国際関係学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。また、校友の皆様方には、私ども国際関係学部・短期大学部(三島校舎)に対する平素のご支援・お力添えに、深く感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

現在も新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらず、令和三年八月二十日からは静岡県でも二度目の緊急事態宣言が発出され、依然として収束の兆しは見えていません。このような状況の中、本学も多大な影響を受けております。そこで今年に入ってから、国際関係学部・短期大学部(三島校舎)の状況及び

すようお願い申し上げます。

対応についてお話しいたします。

令和二年度の卒業式関連の行事は、昨年と同様に、規模を縮小して三島駅北口校舎において学位記・修了証書等の伝達のみを執り行いました。令和三年度の入学式・開講式は、感染対策を施した上で、開講式のみを本校舎桜アリーナにおいて挙行いたしました。また、昨年度は開講式が行われなかったことから、本年五月一日に令和二年度の入学生を対象とした歓迎式を執り行いました。前学期の授業については、原則オンライン授業を継続していますが、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で、対面授業の割合を増やし

ております。

学生への支援については、学費支弁が困難となった学生を対象にした「日本大学創立一三〇周年記念奨学金(第三種)」の給付制度を昨年創設し、令和二年度は第一期・第二期を合わせて、短大生を含め一一二名に対して、約三、一〇〇万円の奨学金を給付いたしました。また、オンライン授業の実施に伴い、パソコンの無償貸与、学内のネットワーク環境の増強等も行っています。

新型コロナウイルスワクチンの接種ですが、本学でも積極的に職域接種を実施することが決定され、三島キャンパスにおいても、九月七日に第一回目の接種が行われ、希望する学生及び教職員など約一、一〇〇名へのワクチン接種が行われました。また第二回目の接種は十月十三日に予定されております。

九月十七日から始まる後学期については、緊急事態宣言が発出されている状況を鑑みまして、引き続き、オンライン授業と対面授業の併用を継続し、今後の感染状況を見ながら、方針を決定していくこととしております。

す。これらのことは、大学のホームページでの周知はもとより、学生にはユニバーサルパスポートに掲載し、随時情報の発信をしてまいります。

また、一昨年から重要事業整備計画として申請していた「国際関係学部図書館兼管理棟新築工事」について報告いたします。

今年三月に本部において設計会社が決定したことを受け、四月には学内に「図書館兼管理棟建設委員会」及び「設計分科会」を新たに設置しました。今後は「基本構想書」を基に、本部管財部とも連携しながら、新校舎の基本設計を作成し、実施設計に着手していくこととなります。

このように、国際関係学部・短期大学部（三島校舎）は、学生の教育・学生生活環境の充実に向けて教職員一丸となって取り組んでまいりますので、校友会の皆様には今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆となりましたが、国際関係学部校友会の益々のご発展と校友の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「相田信次君を偲ぶ」



国際関係学部校友会副会長

弓場重明

『今晚は、この度、当クラブに入会しました弓場です。宜しくお願ひします。』と言って席に付くとすぐに食事が始まりまし

た。そこへ、『弓場君、久しぶり』と、ビール瓶を持って私の横に現れたのが何と短大時代の同級生の相田信次（以下彼と言う）君でした。お互い、三十一歳の働き盛りの頃でした。

この日が、あらためて卒業後のお付き合いが始まった記念の日となりました。それから、会の例会でお会いすることが多くなり、お互いの現状を話す機会も増えました。その中で、私が建築設計事務所を営んでいるとの話をしたところ、今会社でテナントビル（アイダ産業ビル）の建設を予定しているところだと聞き、設計をさせて戴くこととなりました。完成後には事務所を

アイダ産業ビルに移し、それ以来同じビルの中で仕事をするこ

とになり、四十年間、殆ど毎日、彼と顔を合わせるようになりました。

その後、彼の誘いで日大国際関係学部校友会活動に参加し始めました。箱根駅伝や学園祭・総会等、彼は並々ならぬエネルギーをもって何事にも熱心で仕事も顧みずに校友会活動に傾注していました。それに引きずられるように私も校友会活動に足

多く参加することとなりました。

当時、ご両親も健在で、仕事も順調で、日々校友会活動やボランティア活動、仕事を両立して

精力的に活動しておりました

が、彼が四十八歳の時に、母親が交通事故で突然亡くなられました。それを境に、彼の環境が一変

したのと言うまでもありませんでした。

人は亡くなっても、その本人を知っている人が亡くなるまで心の中で生きていると言われる

す。私が天に召されるまで、私の心の中で生き続けてくれると信じています。

生前は大変お世話になりました。この原稿をしたためている間、彼と行動を共にした日々が走馬灯のように甦ってきました。

安らかに眠りください。

合掌



俗名 相田信次

享年 七十一歳

彼の人生の大半は校友会と家族為のだったのではないかと思

「三島キャンパス」



国際関係学部・短大三島校友会
山形県副支部長

吉田 雄人

日本大学国際関係学部校友会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また山形県支部活動に對して深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

三島キャンパスで出来た友人とは今でも連絡を取ったり、会ったりしています。

私は平成一六年(二〇〇四年)日本大学山形高等学校から日本大学短期大学部(三島校舎)商経学部に入學し、二年間三島キャンパスで学びすごさせていただきました。入学当時は親元を離れての一人暮らしに不安でいっぱいでしたが、キャンパスライフが始まってからはそんな不安は一瞬でなくなりました。

山形県国際関係学部短大三島校友会では副支部長をしており、これからも会員拡充を図るという目標を掲げ活動に取り組んでまいります。

三島キャンパスでは経済学、マーケティング論、簿記論、ビジネスマナーなど多くの事を学びました。サークル活動にも参加し仲間をたくさん作り、楽しい思い出が出来ました。

「日大人50年目の回想と 国際関係学部校友会ならではの SDGsの取り組み提案」



国際関係学部常任幹事

神戸 絹代

国際関係学部校友会の皆様、コロナ禍、感染予防や行動制限など生活スタイルが大きく変わり、なかなか人びととの交流ができない現状がありますがいかがお過ごしでしょうか。

私が一九七一年に短期大学部家政科食物栄養専攻(現食物栄養学科)に入學して今年で五十年目に当たります。皆様の中で、覚えている卒業生もいると思いますが、当時は、文理学部(三島)・短期大学部があり、正門を入ると右側に四号館、左側には広々と芝生が広がり、四月には満開の桜を見ることができ当時の学び舎が脳裏に浮かんできます。二年間ここで学び、栄養士資格を取得して実習助手として四年間勤務し、卒業生を送り出す側になりました。一九九七年に

代が当たり前になると考えられます。健康であれば、六十九歳の私は一〇〇歳まで生きられるのではないかと希望を持ちワクワクした人生を送っていききたいと念願します。

六十五歳で日大を退職後は、日大で得た経歴から新たな大学で教鞭をとっています。担当している教科の中でSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を取り入れた授業があります。

SDGsは国際社会共通の目標で、十七の目標が掲げられ、日本でも多くの企業などが取り組んでいます。国際関係学部、ビジネス教養学科、食物栄養学科のそれぞれの学科の特徴は、十七の目標の多くに関われると思います。異なる学部、学科を持っていることは、国際関係学部校友会の強みでもあり、この三つの分野の卒業生がタックルを組むSDGsに取り組んでみませんか。校友会の活動の中には、在校生への支援や銀杏並木の清掃などがありますが、もう少し広く社会貢献ができる活動も検討しても良いのではないかと、この紙面をお借りして提案してみま

す。

校友会の皆様、SDGs活動として何か良い案がありました

ら皆様のお力をお借りし、校友会の皆様と活動できることを切に願っています。

「出会い」



国際関係学部校友会常任幹事

藤本文彦

短期大学部工科建築科を十三期生として卒業して四十三年余り経ちました。卒業当時と比べると、キャンパス内の幾つかの建物が建て替わり、当時の面影が少なくなり、月日の経過を感じます。

私は、入学して「建築意匠研究会」のサークルに入会しました。その時の事で覚えているのは、十一月の学際に向けての準備の為に、一年生の夏休みは京都へ行き、文化財に指定されて、普段は一般見学できない茶室の中を時間制限で見せて頂いた事、二年生の時は古民家についての研究？の為、長野県塩尻市の旧中山道の宿場町で街並みや、その

中で国の文化財の指定を受け、実際に生活している人に本棟造りの建物を見学させて頂き、指定を受けているので改修が思う様に出来ないと言われた事などを思い出します。

そんな仲間たちとサークルなどで集まった後、時々三島広小路近辺の、「ぼていじゅ」「満貫」などへ飲みに行ったのも懐かしい思い出ですが、今はそのお店も無くなってしまいました。

建築科は十五期生を最後に無くなりましたが、「建築意匠研究会」の十三期～十五期は在学中から仲が良く、十五期生が卒業してからは、幹事を持ち回りしながら毎年夏に、幹事の地元で

一泊二日の日程で集まり、ワイワイと共有の時間を過ごしていました。年が過ぎ、それぞれが結婚し、子供が生まれると家族単位での参加に移り、子供が成長するとそれぞれの家族が子供中心での夏の過ごし方が変わって、この時期にみんなの都合を合わせるのが難しくなつて、集まる頻度が低くなりました。子供達が成人すると元に戻つて、家族単位ではなく個人単位で偶に集まっています。何年経とうが、会えば気持ちだけはすぐに、三島校舎で過ごした学生の頃に戻ります。

特に同期の六人とは、この集まりとは別に、それぞれの結婚式や子供が出生した時のお祝いなど、節々に関わりあつていました。三島校舎に来ての一番の出来事は、こんな仲間と出会えた事だと思っています。

三島校舎内の建物が変わったり、昔の飲み屋が無くなったり、年月の経過と共に色々と様変わりしましたが、この学び舎の「建築意匠研究会」で仲間に出会えた事に感謝しています。

「Dreams Come True」



国際関係学部校友会顧問

柴田 正

会員の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。ここ数年は、今まで誰も経験した事のない自然の脅威に晒されておりますが、節度を守り、元氣良く毎日を送っていただけだと思います。

私は、遡ること五十五年前、(一九六六年)日本大学短期大学部工科建築科に入学いたしました。今にして思えば、何を勘違いしていたのか、加山雄三主演映画『若大将シリーズ』が、自分自身にも始まると期待してしま

た。果せる哉、入学後、即、淡い夢と消えました。多少のショックは感じつつも、ぼんやりと大学生活を送れる程世の中自分に都合良く回らない。前途多難を覚悟しながら、とにかく自分なりの目標を立てることにしました。(期限付有り)

一、二年後に理工学部建築科に編入学し、一九七〇年三月同学科を卒業する。

二、本を読む(ジャンル不問)

三、映画を観る(新旧不問)

四、著名人に会う(期限なし)

一は、大波小波を乗り越えて、クリアしました。

二は、太宰治から入りました。現在は『島耕作シリーズ』を購読中です。

三は、VHS→DVDへのダビングがうまくいき、リタイアしたら映画三昧と思っていたが、以外と多忙でゆっくりと観られず、今後も継続です。

四は、三年生の時、何か武術を習おうと思い、電話帳の最初の方に載っていた合気道を選び、本部道場に向かいました。入門して数日後、合気道開祖の植芝盛平大先生にお会いしました。大先生が御出になる日時を受付で教えていただき大先生とお会い

し、実技指導や、お話等直に受けることができました。

建築家・安藤忠雄氏の講演会は数回参加しました。他に作家・プロ野球選手等々時間を作って出掛けました。やはりトップと言われている方の話は為になると感じ入りました。

いよいよ社会人となり、大人の目標(人生スケジュール)を決めました。

一、一級建築士資格の取得(現場で一人前として扱われない為、取得必須。二十代の内に取る)

二、外国で自分がどれだけ(仕事において)通用するか、武者修行してみたい(期限なし)

一は、数回壁を破れなかったがどうかこうにか目標の二十代で無事取得完了。

一級取得から一年経った頃、打合せの帰りにJR三島駅の地下道を歩いている時、*「あれ」*と立ち止まりました。偶然か必然か、『青年海外協力隊・隊員募集』のポスターが貼付してありました。

早速、資料を集め、応募の結果、一次・二次試験共にパスし、一九七七年十一月入隊しました。翌七八年三月最終試験をパ

スし四月、ネパール王国(職種・都市計画)に着任しました。都市計画は、短大生の時の部活で馴染んでおり、卒論も都市計画であり何でも来いの気構えでした。二年後、一九八〇年四月、任期満了にて無事帰国しました。

人それぞれ進む道は違っても本人の気力・体力が衰えていてはチャンスも素通りしてしまいます。『焦らず、慌てず、諦めず』Dreamsを忘れずに頑張ります。

校友会優秀賞受賞者



国際総合政策学科四年

大石 亮人

日本大学国際関係学部に入學し、早三年半が過ぎ、私の学生生活も残り半年となりました。これまでの大学生活を振り返ると、

とても充実し、内容の濃い三年半だったと感じています。特に私の所属している硬式野球部では、かけがえのない時間を過ごせています。

日本大学国際関係学部硬式野球部は、百名以上の部員が所属しており、入部当時は自分が試合に出るなど想像もしていませんでした。想像どおり、一年次は全く試合には出られませんということが私の野球人生の中でなかったもので、それが悔しくて、二年次からは今まで以上に意識高く、野球に励むようになりました。その結果、二年次の秋リーグ戦からメンバーに入り、試合に出られるようになりました。入部当時は、部員が多いからといってメンバーには入れないと決めつけていた私ですが、悔しさを知り、目標に向かって努力することの充実感や、大切さを野球を通じて学びました。挫折や悔しいと思う気持ちは自分を突き動かす原動力になるということも学びました。

昨年シーズンは、新型コロナウイルスの影響により、春季リーグ戦が中止となり、練習時

間も制限され、これまでのように野球ができなくなってしまいました。しかし、このような状況下でも野球ができる環境を作ってくれた野球部関係者の方々やチームスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。このように環境を作ってくれたおかげで、秋季リーグ戦は優勝することができました。私個人としては最優秀投手賞を受賞することができました。春季リーグ戦が中止になり、先輩方と野球ができる最後の大会だったので、優勝することができて本当嬉しかったです。また、個人タイトルを取るというのは試合に始まった頃からの目標だったので、達成することができてよかったです。

今シーズンは、最上級生になり先輩を引っ張っていく立場となりました。その中で私は副主将という役割を与えていただき、充実した日々を過ごしています。新チーム結成時はチームとしてまとまりがなく、先輩方の偉大さが改めて分かりました。主将と共にチームがどうすれば良くなるか試行錯誤の毎日でした。そんな中始まった春季リーグ戦

では、全員が同じ目標に向かって取り組みたおかげで優勝することができました。個人としては最優秀投手賞を含む四つの個人タイトルを受賞することができました。しかし、全国大会に繋がる東海大会で負けてしまい、チーム目標である全国に一步届きませんでした。次の秋季リーグ戦が学生最後の大会になるので、笑って終えられるように最後までやり切りたいと思います。また、これまで支えてくださったスタッフの方々とチームメイトに感謝の気持ちを持って恩返ししたいと思っています。

野球というスポーツを通じて私は多くの学びと経験を得ることができました。残り半年の学生生活を後悔のないように最後までやり切り、これまで得た学びや経験を、これからの人生に活かしていきたいと思っています。





国際総合政策学科三年

客野 祐太郎

日本大学国際関係学部に入學し、本部の硬式野球部に所属してから二年半もの歳月が過ぎました。新型コロナウイルスの蔓延により、制限がかかった中で部活動や大学生活ではありませんが、野球部の指導者の方々、先輩、仲間そして両親に支えられていることを実感しながら有意義な時間を送ることができています。

私が所属する国際関係学部硬式野球部は、二〇〇〇年に創部され、今年で二十二年目を迎えます。「学業と部活両立」を通じ、地域住民の方々と共に喜び合えるチーム作り、人作りを目指し活動しています。二〇二〇東海地区大学野球静岡県秋季リーグにおいては、リーグ戦通算二十五年目となる優勝で終えることができ、個人賞として新人賞、ベストナインを受賞することとな

りました。静岡県代表として挑んだ東海地区大会では、準優勝という結果でしたが、チーム一丸となって戦うことの大切さを非常に感じた素晴らしい決勝戦でした。

現在野球部員は一五〇名程の部員があり、富士山を仰ぐ御園グラウンドで活動しています。平日の練習は個人の弱点克服に重きをおいた、個人のレベルアップ練習に取り組んでいます。土日はこの平日練習の成果を発揮させるべく全体練習を行います。土日の実践練習でうまくできなかつたこと等を反省し、そしてまた平日練習に取り組むという繰り返しです。この大学の練習方法は、自分が野球に取り

組むうえで非常に馴染みがよく、今回の個人賞につながったのではないかと思います。高校時代は与えられたメニューをこなすだけでしたが、自主性を重んじる大学のやり方は、練習内容や方法を自分で考え、意図的に取り組むことができません。結果が出ない時、うまくいかない時は、指導者の方々や先輩、仲間と相談したり、アドバイスを受けていきます。野球を通じ

て「自主性」を身につけることができ、これが大学生活にも生かすことができていると実感しています。

二〇二一年静岡県春季リーグ戦では二十六回目のリーグ優勝ができました。今、秋季リーグ戦が始まるとうとしています。コロナ禍の中で野球ができること、試合を開催できる環境を整えて下さる周りの方々に感謝をしつつ、残りの一年半、さらに充実した大学生活を楽しみたいと思います。

各団体代表者

「文化会」



国際総合政策学科三年

横田 桜

部員たちは各地へ引き離されたまま、オンライン授業は二年目を迎えました。私が所属する演劇部も、新入部員はこの二年

間で一人。部の存続が大変苦しい状況です。オンラインのみの活動では意欲も下がり、連日出される膨大な課題の中で創作的な活動を続けるのは至難の技でした。

演劇の醍醐味は、観客が目の前で息づき生きている役者を見て、一方的ではなく双方向に影響しながら物語を作り上げていくことです。ナマの繋がりを大事にする演劇はコロナ禍で真っ先に規制され、今まで演劇部が培ってきた、閉鎖された教室での効果的な照明・音響の技術などは、オンライン上では全く意味を成さないものとなってしまいました。

そのような中で私たちは、Zoomの録画機能を用いた数十分の短い芝居を撮影するなど、工夫を重ねて活動を続けてきました。しかし、全く未知の世界に足を踏み入れるわけですから、満足のいくクオリティに到達することも難しく、苦悩の日々が続いています。

あまりにも不便な状況に三年生の私たちでさえ苦しんでいるのですから、新一年生・新二年生の不安と困難は計り知れないも

のと思います。そこで頼りになるのは、やはり同期の友人や部活動の先輩方です。ぜひ、少しでも興味を持った団体にコンタクトを取ってみてください。そこでお勧めの先生やレポートのコツなどを聞き、自分たちには面倒をみってくれる先輩たちがいるのだと安心してください。入部はしなくともなんら問題はありません。どの団体の先輩たちも、この状況で一人でも新入生が話を聞きに来てくれるというだけで、物凄く嬉しいのですから。

演劇は、もはや以前のスタイルを維持することは難しくなっています。短期間にここまで変遷してしまった世界は、コロナ禍以前の姿に完全に戻ることはあり得ないでしょう。しかし、悲観的になることはありません。演劇は誕生以来、シェイクスピアの舞台芸術から今日まで様々な変化を共に発展を遂げてきました。その文化の同じように、その時代や国に合わせて柔軟に人々に形を変えて受け入れられて、現在があるのです。私たちは今、世界的な歴史の変わり目にあります。この先私たちの身を置く芸術が、文化が、どうなってい

くのか自由に決めて良いのだと思うとワクワクしませんか。これからも世界を共に柔軟に発展していく文化会を、どうぞ宜しくお願い致します。

「体育会」



国際総合政策学科三年

北村 洸

早いもので、私が当学部に入學し、陸上競技部としての活動も二年半が経とうとしています。

私が陸上競技部に入ったきっかけは、高校でも所属していたから…という単純なものでした。高校時代には、顧問の先生により細かく設定された練習メニューに沿って管理され、厳しい指導を受けながら練習を重ねるスタイルでしたので、大学の陸上競技部も、いわゆる「体育会系」のイメージがありました。ところが実際に入学してみると、日々の練習メニューは個々の学

生の自主性が重んじられ、走ることを楽しむことが肯定される世界でした。したがって、最初は物足りなさを感じる部分もありましたが、いつしか久しく忘れていたかけっこの楽しさを純粋に楽しめていることに気づかされました。

そして、二年生、三年生となり、新型コロナウイルスの影響で満足な体育会ライフも送れない中、私は陸上競技部部長に選ばれ、それだけでなく体育会会長まで務めるというサブライズな経験を得ました。

私はこれまで人の先頭に立つような役職を経験したことがなかったため、最初は不安しかありませんでしたが、新部長となつて最初に新入生の勧誘活動を行い、このような状況下にあるながらも四名の新入生が入学を決めてくれました。もしかしたら、頼りない私を見て、自分たちが部長、そして陸上競技部を支えなくては！という後輩部員の福祉の心があつたのかもしれないませんが、とにかくこのことは部長としての私の自信にもつながりました。

陸上競技というものは、シユ

ーズ等の用具の進化にも助けられる部分はありますが、基本的には自身の身体一つで能力の限界を高めていくスポーツです。とはいいつつ、一緒に練習を行ってお互いに高め合うライバルたちの存在も欠かせません。新型コロナウイルスの感染拡大により対面での部活動も禁止、各自の自主的な活動を強いられ、更には練習の成果を図る大会も少ない今、部員のモチベーションをどう上げていくか、部長としても、日々頭を悩ませています。

早くコロナが収束し、部員たちと顔を合わせて練習が行える日がくることを願っています。今後とも、陸上競技部、そして体育会をよろしくお願いいたします。

「富桜祭」



国際総合政策学科三年

松原 颯

私が日本大学国際関係学部に入

学してから二年六ヶ月が経ちました。二〇二〇年二月に日本でも新型コロナウイルス感染症が流行し、授業の様式やクラブ活動など大学での生活が大きく変化しました。その対象として、私たち富桜祭実行委員会も例外ではありませんでした。ですが昨年、インターネットを用いたオンライン開催を行い、例年とは異なりますが第七十回富桜祭を無事に開催することができました。そして、今年で富桜祭も第七十一回目を迎えます。毎年、日本大学国際関係学部三島キャンパスを盛り上げ、活気を創り出している富桜祭は昨年同様にオンライン開催にはなりますが、今年も迎えらるる事を大変嬉しく思います。この校友会会報では、私が当委員会へ入学してから委員長として開催へ至るまでをお伝えできたらと考えております。私は入学してからすぐに富桜祭実行委員会に入部しました。そこでは様々な活動を行い、多くの先輩方や仲間たちと出会いました。今ではとは全く異なる環境での活動は、不安もありましたがとても新鮮なものでした。二年生になると、実行委員内

令和2年度 事業報告

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与
令和2年度日本大学国際関係学部在学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。
- ・校友会会長賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部2名に贈られ令和3年3月25日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で中止になり賞状及び奨励金を本人宛に送付した。
 - ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部2名に贈られ令和3年3月25日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で中止となり賞状及び奨励金を本人宛に送付した。
 - ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部2名に贈られ新型コロナウイルスの影響で令和3年3月26日校舎13号館1階ホールにおいて授与式を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止となり賞状及び奨励金を本人宛に送付した。
- ①校友会会長賞（副賞：奨励金）
（国際教養学科4年）表谷 健斗（国際総合政策学科4年）井上 悦嗣
- ②校友会優秀賞（副賞：奨励金）
（国際総合政策学科4年）林 健太（国際総合政策学科4年）丹羽 翔子
- ③校友会優秀賞（副賞：奨励金）
（国際総合政策学科3年）大石 亮人（国際総合政策学科2年）客野 祐太朗
- 1 メタルクラフト
1,200個を製作し令和2年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島）各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。
- 1 会報発行
会報51号を令和2年10月23日付け24頁 20,200部を発行した。
- 1 各事業に対する補助
①国際同窓会・桜栄会及び山形県支部に対する補助
②大学の体育会・文化会に対する補助
- 1 常任幹事会
令和2年6月6日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館5階において開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 幹事会
令和2年6月6日（土）17時10分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館5階において開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 総会並びに懇親会
令和2年7月4日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 国際校友会公式WEBサイト更新
令和2年4月から公式WEBサイト（ホームページ）に年間8回に渡り校友会行事を写真集として更新した。
- 1 富桜祭物産展参加
令和2年10月31日（土）11月1日（日）両日に開催された第70回富桜祭に校舎15号館1階ステイエリアの一部を使用して校友会主催による地元特産物等の販売予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 ホームカミングデー開催
令和2年8月15日（木）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による『三島大祭りバージョン』と称して開催を予定したが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 令和2年10月31日（土）11時から15時まで校舎13号館2階講師室にて開催を予定したが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- 1 銀杏並木歩道清掃作業
本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施した。ボランティア活動の一環として毎月第4日曜日の午前9時から約1時間、銀杏並木南側歩道橋附近から北側幸原町交差点までの両側歩道植え込み清掃を本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度は8月23日を第1回目として7回実施し、参加者は校友会会員に加え日大三島高校生生徒延86名が参加した。

令和2年度 収支決算書（平成2年4月1日～令和3年3月31日）（単位:円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	390,000	220,000	170,000	会 費 収 入	13,408,000	9,152,000	4,256,000
校 友 会 報 発 行 費	820,000	894,872	△ 74,872	雑 収 入	974,000	4,089	969,911
各 科 同 窓 会 等 補 助	300,000	250,000	50,000				
学 生 団 体 補 助	800,000	228,000	572,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	1,200,000	295,240	904,760				
箱 根 駅 伝 応 援 補 助	920,000	10,000	910,000				
本 部 校 友 会 会 費	470,000	470,000	0				
入 学 記 念 品 費	600,000	673,200	△ 73,200				
卒 業 記 念 品 費	1,500,000	1,400,000	100,000				
会 議 会 合 費	300,000	0	300,000				
通 信 運 搬 費	2,200,000	2,214,279	△ 14,279				
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	450,000	404,800	45,200				
事 務 費	1,700,000	1,380,999	319,001				
会 員 名 簿 作 成 費	100,000	57,035	42,965				
就 職 合 同 面 接 会 運 営 費	0	0	0				
日 本 大 学 130 周 年 記 念 寄 付 金	100,000	100,000	0				
雑 費	800,000	494,231	305,769				
国 際 関 係 学 部 校 友 会 奨 学 金 支 援 基 金	250,000	250,000	0				
予 備 費	200,000	498,000	△ 298,000				
計	13,100,000	9,840,656	3,259,344	計	14,382,000	9,156,089	5,225,911
基 金 繰 入 額	300,000	300,000	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	35,482,170	33,515,603	1,966,567	前 年 度 繰 越 金	34,500,170	34,500,170	0
（繰越金）	35,482,170	33,515,603					
支 出 の 部 合 計	48,882,170	43,656,259	5,225,911	収 入 の 部 合 計	48,882,170	43,656,259	5,225,911

貸 借 対 照 表（令和2年3月31日現在）（単位:円）

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	48,515,603	基 金	20,640,000
定 期 預 金	5,640,000	前 年 度 繰 越 金	20,340,000
		本 年 度 繰 入 額	300,000
		本 年 度 繰 出 額	0
		次 年 度 繰 越 金	33,515,603
		繰 越 金	33,515,603
合 計	54,155,603	合 計	54,155,603

基 金 の 内 訳（単位:円）

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	本 年 度 繰 出 額	合 計
基 金	20,340,000	300,000	0	20,640,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	6,780,000	100,000	0	6,880,000
計	20,340,000	300,000	0	20,640,000

令和2年度収支について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしました。記帳その他正確であることを認めます。

令和3年4月26日

会計監査 木 村 貴美和 ㊞
会計監査 藤 本 文 彦 ㊞

令和3年度 事業計画

- 1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）
日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）令和4年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。
・校友会会長賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 3名
・校友会優秀賞並びに奨励金 国際関係学部 4年卒業予定者 4名
短期大学部（専攻科含む）2年卒業予定者 2名
・校友会優秀賞並びに奨学金 国際関係学部 2・3年在学生 4名
短期大学部（専攻科含む）1年在学生 2名
- 1 メタルクラフト
1,000個を製作し令和3年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島校舎）各学科及び専攻科の新入生全員に対して入学祝として渡す。
- 1 会報発行
会報52号（令和3年10月1日付）24頁 20,000部発行予定。
- 1 各事業に対する補助
①各科同窓会及び支部に対する補助
②大学体育会・文化会に対する補助
③箱根駅伝応援（予選会含む）に対する補助
- 1 常任幹事会
令和3年6月5日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。
- 1 幹事会
令和3年6月5日（土）17時15分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。
- 1 総会並びに懇親会
令和3年7月3日（土）15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する。
- 1 国際校友会公式WEBサイト更新
年間行事を写真集として更新する。
- 1 箱根駅伝予選会応援
令和3年10月16日（土）国営昭和記念公園コースのスタート・ゴール地点及び中間地点で応援する。
- 1 三島学園開設75周年記念事業
- 1 富校祭物産展参加
令和3年10月30日（土）・31日（日）に開催される第71回富校祭に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して10時から16時まで校友会主催による地元特産物等の販売に参加する。
- 1 ホームカミングデー開催
令和3年8月15日（日）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による「三島大祭りバージョン」を国際関係学部・短期大学部（三島）及び日大三島高校卒業生並びに法・文理・経済・商学部移行生を対象として開催する。
- 1 箱根駅伝応援
令和4年1月3日（月）復路スタート応援地点で応援する。また、令和4年1月2日（日）往路ゴール応援地点及び令和4年1月3日（月）復路スタート応援地点で国際関係学部チアリーディング部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。
- 1 銀杏並木歩道清掃作業
ボランティア活動の一環として、本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施する。
実施日は毎月第4日曜日午前9時から約1時間とする。

令和3年度 収支予算書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）（単位:円）

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	390,000	390,000	0	会 費 収 入	13,372,000	13,408,000	△ 36,000
校 友 会 報 発 行 費	900,000	820,000	80,000	雑 収 入	780,000	974,000	△ 194,000
各 科 支 部 等 補 助	300,000	300,000	0				
学 生 団 体 補 助	800,000	800,000	0				
総会並びに懇親会費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000				
箱根駅伝応援等補助	920,000	920,000	0				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
入 学 記 念 品 費	500,000	600,000	△ 100,000				
卒 業 記 念 品 費	1,500,000	1,500,000	0				
会 議 会 合 費	300,000	300,000	0				
通 信 運 搬 費	2,000,000	2,200,000	△ 200,000				
ホームページ運営費	400,000	450,000	△ 50,000				
事 務 費	1,400,000	1,700,000	△ 300,000				
会員名簿作成管理費	100,000	100,000	0				
就職合同面接会運営費	0	0	0				
日本大学130周年記念寄付金	100,000	100,000	0				
雑 費	600,000	800,000	△ 200,000				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予 備 費	0	200,000	△ 200,000				
計	11,930,000	13,100,000	△ 1,170,000	計	14,152,000	14,382,000	△ 230,000
基 金 繰 入 額	300,000	300,000	0	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	35,437,603	35,482,170	△ 44,567	前 年 度 繰 越 金	33,515,603	34,500,170	△ 984,567
（繰越金）	35,437,603	35,482,170					
支 出 の 部 合 計	47,667,603	48,882,170	△ 1,214,567	収 入 の 部 合 計	47,667,603	48,882,170	△ 1,214,567

基 金 の 内 訳（単位:円）

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	合 計
基 金	20,640,000	300,000	0	20,940,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	6,880,000	100,000	0	6,980,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	6,880,000	100,000	0	6,980,000
三島学園開設75周年記念事業基金準備金	6,800,000	100,000	0	6,900,000
計	20,560,000	300,000	0	20,860,000

令和3年度役員

任期(R3.4.1 ～R6.3.31)

役 職 氏 名 (在学年度)

役 職 氏 名 (在学年度)

役 職 氏 名 (在学年度)

教養学部

幹事 坂口正剛 (37)
幹事 小石川宣照 (37)
幹事 遠藤日出夫 (37)
幹事 渡辺博夫 (37)
幹事 両角 勇 (42)
幹事 江川 洋 (42)
幹事 林田孝二 (43)
幹事 藤幡俊量 (46)
幹事 野村諒子 (46)
幹事 高藤省三 (49)
幹事 室伏伯士 (48)
幹事 瀧本 博 (53)
幹事 中川 一 (56)

桜文会

幹事 隅田やす代 (42・43)
幹事 野村恭子 (42・43)
幹事 園田正子 (42・43)
幹事 小永井京子 (43・44)
幹事 内田恵子 (43・44)
幹事 高橋真理子 (44・45)
幹事 関野啓子 (44・45)
幹事 中野利庸子 (44・45)
幹事 榎本睦美 (45・46)
幹事 杉浦美恵子 (45・46)
幹事 石井千枝子 (46・47)
幹事 高橋 令子 (46・47)
幹事 西島節子 (47・48)
幹事 正田仁美 (47・48)
幹事 沼上博美 (48・49)
幹事 小林美佐枝 (49・50)
幹事 田邊尚美 (50・51)
幹事 前川和代 (50・51)
幹事 松村啓子 (51・52)
幹事 和田律子 (51・52)
幹事 興野智子 (51・52)
幹事 佐野有美 (52・53)
幹事 大塚久子 (52・53)
幹事 瀬川晶子 (52・53)
幹事 吉川しのぶ (52・53)
幹事 山崎潤子 (53・54)
幹事 田中真由実 (53・54)
幹事 足立俊子 (54・55)
幹事 原賀桂津世 (54・55)
幹事 武田裕美 (55・56)
幹事 名取厚子 (56・57)
幹事 北川早苗 (56・57)
幹事 山崎睦子 (57・58)
幹事 田中裕子 (57・58)
幹事 竹村峰加 (57・58)
幹事 高野直美 (58・59)
幹事 秋山恵子 (58・59)
幹事 佐野裕子 (58・59)

会 長 横山雅人 (56～59)
副会長 宮下公雄 (54～57)
副会長 濱田義之 (45)
副会長 山田浩子 (41・42)
副会長 江本博勝 (46・47)
副会長 平澤佳代子 (58・59)
副会長 弓場重明 (44・45)
幹事長 田中由雄 (42・43)
常任幹事 (庶務担当) 関野浩二 (57～60)
常任幹事 (会計担当) 塩谷典子 (56～59)
常任幹事 伊奈敏文 (39・40)
常任幹事 染谷徳昭 (42・43)
常任幹事 山口良児 (43・44)
常任幹事 平岩美知子 (44・45)
常任幹事 久保田博明 (45・46)
常任幹事 遠藤晶子 (44・45)
常任幹事 早川清文 (45・46)
常任幹事 西野和衛 (46・47)
常任幹事 瀬川 宏 (47・48)
常任幹事 神戸絹代 (47・48)
常任幹事 多田清吾 (47・48)
常任幹事 鈴木 允 (48)
常任幹事 諏訪部昭子 (51・52)
常任幹事 斎藤千鶴子 (51・52)
常任幹事 露木ひろみ (53・54)
常任幹事 押見恵美子 (53・54)
常任幹事 松原裕二 (54～57)
常任幹事 勝亦幾代 (56・57)
常任幹事 西田昭子 (57・58)
常任幹事 高野 誠 (57～60)
常任幹事 勝又義博 (57～60)
常任幹事 久保和之 (63・01)
常任幹事 久保田裕子 (01・02)
常任幹事 藤澤博隆 (03・04)
常任幹事 山瀬 匠 (08・09)
常任幹事 渡邊孝哉 (09・10)
常任幹事 深澤ほの香 (23～26)
常任幹事 日吉 智 (25・26)
常任幹事 藤本文彦 (52・53)
常任幹事 木村貴美和 (55～58)

顧問 柴田 正 (41・42)
顧問 小早川隆義 (42・43)
顧問 野中美香 (55・56)
参 与 渡辺洋子 (35・36)

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	歌 崎 勉 (39・40)	幹	事	大 島 裕 二 (52・53)	幹	事	阿 部 昭 子 (59・60)
幹	事	土 屋 忠 得 (40・41)	幹	事	岡 田 美 喜 子 (53・54)	幹	事	鍵 山 美 希 (59・60)
幹	事	稲 葉 知 二 (41・42)	幹	事	吉 川 浩 司 (54・55)	幹	事	神 田 留 美 子 (60・61)
幹	事	渡 辺 穂 積 (41・42)	幹	事	後 藤 幸 江 (58・59)	幹	事	佐 藤 明 美 (61・62)
幹	事	秋 山 幸 広 (41・42)	幹	事	齋 藤 み どり (59・60)	幹	事	後 藤 澄 映 (61・62)
幹	事	後 藤 洋 志 (42・43)	幹	事	長 澤 裕 子 (59・60)	幹	事	松 縄 和 恵 (62・63)
幹	事	小 澤 義 明 (46・47)	幹	事	齋 藤 千 春 (01・02)	幹	事	内 田 美 典 (62・63)
幹	事	杉 森 繁 (46・47)	幹	事	吉 川 清 志 (02・03)	幹	事	中 川 み どり (62・63)
幹	事	宮 川 守 (47・48)	幹	事	南 まり子 (03・04)	幹	事	神 戸 一 葉 (62・63)
幹	事	西 島 典 雄 (47・48)	幹	事	川 口 恭 子 (04・05)	幹	事	白 石 忍 (63・01)
幹	事	加 藤 博 昭 (48・49)	幹	事	白 川 美 保 (05・06)	幹	事	田 邊 久 美 子 (63・01)
幹	事	関 野 幹 雄 (48・49)	幹	事	小 柴 慶 子 (06・07)	幹	事	伊 藤 芳 枝 (63・01)
幹	事	小 川 正 治 (49・50)	幹	事	鈴 木 靖 子 (11・12)	幹	事	渡 邊 陽 子 (01・02)
幹	事	近 藤 芳 治 (49・50)	幹	事	津 田 典 子 (11・12)	幹	事	山 本 い づ み (01・02)
幹	事	津 田 正 克 (50・51)	幹	事	矢 澤 実 奈 子 (11・12)	幹	事	犬 塚 久 恵 (01・02)
幹	事	甲 斐 幸 博 (51・52)	幹	事	山 崎 尚 子 (12・13)	幹	事	鈴 木 み の り (01・02)
幹	事	甲 斐 忠 則 (51・52)	幹	事	沖 理 恵 (13・14)	幹	事	関 口 葉 子 (01・02)
幹	事	後 藤 善 夫 (52・53)	幹	事	江 川 真 樹 子 (13・14)	幹	事	石 井 三 香 子 (02・03)
幹	事	西 島 み ゆ き (52・53)	幹	事	栗 原 直 子 (14・15)	幹	事	原 川 久 美 子 (02・03)
幹	事	加 藤 喜 章 (53・54)	幹	事	筒 井 裕 子 (15・16)	幹	事	渡 辺 幸 子 (02・03)
幹	事	佐 野 徹 (53・54)	幹	事	二 又 川 千 恵 子 (15・16)	幹	事	杉 本 宏 子 (02・03)
幹	事	鈴 木 理 平 (54・55)	幹	事	渡 辺 美 穂 (15・16)	幹	事	稲 葉 美 香 (02・03)
幹	事	飯 山 雅 一 郎 (54・55)	幹	事	田 上 泰 子 (16・17)	幹	事	高 鹿 真 弓 (03・04)
幹	事	内 野 祥 司 (55・56)	幹	事	大 石 早 耶 佳 (17・18)	幹	事	森 川 容 子 (03・04)
幹	事	守 野 敏 也 (55・56)	幹	事	小 川 由 香 里 (17・18)	幹	事	秋 山 由 紀 (03・04)
幹	事	山 田 良 (55・56)	幹	事	及 川 枝 莉 (18・19)	幹	事	長 瀬 理 恵 子 (03・04)
幹	事	鈴 木 明 彦 (56・57)	幹	事	澤 口 真 衣 (18・19)	幹	事	北 薮 実 由 貴 (03・04)
幹	事	杉 山 勝 行 (57・58)	幹	事	鈴 木 季 奈 (18・19)	幹	事	阿 部 衣 子 (03・04)
幹	事	末 広 裕 美 (58・59)	幹	事	大 澤 友 紀 子 (19・20)	幹	事	川 口 文 子 (03・04)
幹	事	黒 田 文 量 (59・60)	幹	事	岩 堀 愛 (19・20)	幹	事	長 田 瑞 紀 (04・05)
幹	事	金 城 三 十 二 (59・60)	幹	事	岡 部 倫 輝 (19・20)	幹	事	梅 田 敏 江 (04・05)
幹	事	武 井 直 子 (60・61)	幹	事	高 遠 順 子 (20・21)	幹	事	大 畑 美 代 子 (04・05)
幹	事	酒 井 賢 治 (60・61)	幹	事	高 田 利 勢 (20・21)	幹	事	植 松 郁 子 (05・06)
幹	事	土 佐 谷 泰 子 (61・62)	幹	事	山 口 周 平 (20・21)	幹	事	古 川 み どり (05・06)
幹	事	塩 谷 淳 (61・62)	幹	事	安 藤 康 也 (23・24)	幹	事	古 屋 美 帆 (06・07)
幹	事	川 井 健 一 (62・63)	幹	事	山 岸 典 (24・25)	幹	事	長 田 弘 子 (06・07)
幹	事	野 田 正 人 (62・63)	幹	事	岩 崎 今日 子 (24・25)	幹	事	波 多 野 律 子 (06・07)
幹	事	對 木 知 宏 (62・63)	ビジネス			幹	事	齋 藤 文 江 (06・07)
幹	事	齋 藤 弘 (63・01)	幹	事	大 塚 明 音 (25・26)	幹	事	佐 野 真 弓 (06・07)
幹	事	峯 岡 智 裕 (63・01)	幹	事	高 橋 愛 菜 (25・26)	幹	事	稲 田 友 美 (07・08)
幹	事	鈴 木 孝 治 (63・01)	幹	事	円 谷 優 花 (25・26)	幹	事	橋 本 春 佳 (07・08)
幹	事	田 伏 正 和 (01・02)	幹	事	大 宮 さ や か (26・27)	幹	事	小 林 亜 希 (07・08)
幹	事	名 雪 し げ み (01・02)	幹	事	栗 田 麻 帆 (26・27)	幹	事	長 川 あ か ね (07・08)
幹	事	下 舘 敬 (01・02)	幹	事	鈴 木 菜 月 (26・27)	幹	事	野 村 奈 央 (07・08)
幹	事	管 江 稔 (02・03)	幹	事	芝 美 津 子 (27・28)	幹	事	野 村 美 之 (07・08)
幹	事	明 石 知 恵 美 (02・03)	幹	事	今 村 凌 太 (27・28)	幹	事	山 崎 幸 恵 (08・09)
幹	事	林 田 貴 男 (02・03)	幹	事	上 田 早 姫 (27・28)	幹	事	林 隆 子 (09・10)
幹	事	川 原 浩 貴 (03・04)	幹	事	生 田 太 一 (28・29)	幹	事	藤 本 敦 子 (09・10)
幹	事	小 野 和 彦 (03・04)	幹	事	吉 村 太 杜 (28・29)	幹	事	工 藤 美 咲 (10・11)
幹	事	西 家 忠 宏 (03・04)	幹	事	土 屋 陽 菜 (28・29)	商経・一部		
幹	事	今 川 高 宏 (04・05)	幹	事	宮 本 開 世 (29・30)	幹	事	萩 野 谷 肇 (41・42)
幹	事	町 野 智 彦 (05・06)	幹	事	佐 藤 花 菜 (29・30)	幹	事	上 田 定 義 (41・42)
幹	事	池 原 聡 (05・06)	幹	事	日 馬 孝 昌 (30・31)	幹	事	向 笠 肇 (41・42)
幹	事	杉 山 宏 治 (06・07)	幹	事	大 塚 亜 美 (30・31)	幹	事	山 本 讓 治 (42・43)
幹	事	鈴 木 信 志 (06・07)	幹	事	櫻 井 菜 ャ 香 (30・31)	幹	事	加 藤 久 貴 (46・47)
幹	事	池 田 昌 史 (08・09)	幹	事	高 島 理 弘 (01・02)	幹	事	秋 山 稔 明 (46・47)
幹	事	成 田 伸 行 (08・09)	幹	事	村 嶋 祐 介 (01・02)	幹	事	海 野 順 子 (46・47)
幹	事	藤 井 理 教 (08・09)	商経・二部			幹	事	野 田 栄 (47・48)
幹	事	中 山 洋 安 (09・10)	幹	事	久 保 田 勝 (38・39)	幹	事	由 代 稔 (50・51)
			幹	事	佐 野 勝 己 (39・40)	幹	事	辻 本 真 由 美 (51・52)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	岩下 志保 (05・06)	幹	事	船石 圭子 (53・54)	桜	会	
幹	事	関屋 園子 (05・06)	幹	事	四條 里美 (53・54)	幹	事	板垣 和代 (36・37)
幹	事	渡邊 千史 (05・06)	幹	事	鷺巣 かほる (53・54)	幹	事	佐野 茂子 (36・37)
幹	事	川口由美子 (05・06)	幹	事	藤原 和 美 (54・55)	幹	事	小泉 陽子 (36・37)
幹	事	池谷 尚 美 (05・06)	幹	事	原田 純子 (54・55)	幹	事	中村満里子 (37・38)
幹	事	中村理恵子 (05・06)	幹	事	池谷美津子 (54・55)	幹	事	米山日出子 (37・38)
幹	事	遠藤 理 愛 (05・06)	幹	事	中澤由利子 (54・55)	幹	事	金井美智子 (38・39)
幹	事	神尾 かほり (06・07)	幹	事	佐伯絵里子 (54・55)	幹	事	小坂 照子 (38・39)
幹	事	田中里都美 (06・07)	幹	事	伊藤 若 菜 (54・55)	幹	事	塩谷 まさよ (38・39)
幹	事	鈴木 寛 子 (06・07)	幹	事	吉田麻理子 (55・56)	幹	事	井原 康 恵 (38・39)
幹	事	山本 静 香 (06・07)	幹	事	藤田 建 江 (56・57)	幹	事	望月千登世 (38・39)
幹	事	佐藤 純子 (06・07)	幹	事	小澤里佳子 (56・57)	幹	事	浅田義志子 (39・40)
幹	事	三須 洋 美 (06・07)	幹	事	深津久美子 (56・57)	幹	事	秋山 幸 子 (39・40)
幹	事	齊藤真由美 (07・08)	幹	事	石谷美智子 (57・58)	幹	事	関口 瑞 (39・40)
幹	事	和泉 久 美 (07・08)	幹	事	田中 恵子 (57・58)	幹	事	福尾つや子 (39・40)
幹	事	小野澤美和 (07・08)	幹	事	嶋 由樹子 (57・58)	幹	事	神部 文子 (39・40)
幹	事	小林世以子 (07・08)	幹	事	鈴木江利子 (57・58)	幹	事	伊達 伸子 (40・41)
幹	事	中林 香 子 (07・08)	幹	事	鈴木 敦子 (58・59)	幹	事	高橋 美鶴 (40・41)
幹	事	水谷 鯉 恵 (07・08)	幹	事	武藤 さゆり (58・59)	幹	事	石黒 榮美子 (41・42)
幹	事	横田 忍 (07・08)	幹	事	荻沢 洋子 (58・59)	幹	事	鳥羽山 資子 (41・42)
幹	事	中橋 智子 (08・09)	幹	事	山田 明子 (58・59)	幹	事	秋山 悦子 (41・42)
幹	事	神戸亜里沙 (08・09)	幹	事	鈴木 佳 乃 (59・60)	幹	事	渡辺 あき子 (41・42)
幹	事	兼房 はな (08・09)	幹	事	中條 朝子 (59・60)	幹	事	嶋 美也子 (41・42)
幹	事	石崎 由 香 (08・09)	幹	事	加藤 容子 (59・60)	幹	事	伊 藝 睦 (41・42)
幹	事	佐藤 美 幸 (09・10)	幹	事	清水 佳 乃 (59・60)	幹	事	駿藤 春代 (42・43)
幹	事	田村 理絵 (09・10)	幹	事	稲葉 桂子 (60・61)	幹	事	石原 泰代 (42・43)
幹	事	内田 恵 (09・10)	幹	事	藤井由紀子 (60・61)	幹	事	土屋 時子 (43・44)
幹	事	渡邊 明子 (09・10)	幹	事	穂谷野弥生 (60・61)	幹	事	柴田 敬子 (44・45)
幹	事	植野 敦子 (09・10)	幹	事	小島 みちよ (61・62)	幹	事	川村 千代子 (45・46)
幹	事	佐野 文 美 (10・11)	幹	事	久保 玲 華 (61・62)	幹	事	辻 緑 (45・46)
幹	事	鞍本 鮎 美 (11・12)	幹	事	山下 朋子 (61・62)	幹	事	小林 秀 実 (45・46)
幹	事	尾間 裕 仁 (11・12)	幹	事	鷺尾 貴子 (62・63)	幹	事	杉本 清 美 (46・47)
幹	事	笠原奈津子 (11・12)	幹	事	田上 順子 (62・63)	幹	事	佐藤 奈津美 (47・48)
幹	事	宮田 朋子 (11・12)	幹	事	山口 美樹 (62・63)	幹	事	鈴木 佳津江 (47・48)
幹	事	鈴木 典子 (12・13)	幹	事	櫻田 智栄美 (63・01)	幹	事	神田 みつ子 (47・48)
幹	事	赤川 智海 (12・13)	幹	事	三宅理砂子 (63・01)	幹	事	勝又 昌代 (48・49)
幹	事	小出 祐子 (12・13)	幹	事	野上 香 (63・01)	幹	事	原 康 子 (48・49)
幹	事	峯松 園 美 (13・14)	幹	事	日吉美由紀 (63・01)	幹	事	杉澤 道代 (48・49)
幹	事	山田 美 穂 (13・14)	幹	事	高梨 いづみ (63・01)	幹	事	碓井 久美子 (49・50)
幹	事	高橋 由 実 (13・14)	幹	事	勝俣 千 穂 (01・02)	幹	事	岩田 智加子 (50・51)
幹	事	米永 寿子 (13・14)	幹	事	田村 尚子 (01・02)	幹	事	大沼 めぐみ (50・51)
幹	事	岩田 直子 (14・15)	幹	事	杉村 智 恵 (01・02)	幹	事	峰田 富美子 (51・52)
幹	事	大沼秋桜子 (14・15)	幹	事	湯原 里 美 (01・02)	幹	事	山口 智佳子 (51・52)
幹	事	高橋 美絵子 (14・15)	幹	事	市川 智 香 (02・03)	幹	事	堤 令 子 (52・53)
幹	事	石渡 麻 史 (14・15)	幹	事	岡本 ゆう子 (02・03)	幹	事	白井 道代 (52・53)
幹	事	服部 直 美 (14・15)	幹	事	羽田 真理子 (02・03)	幹	事	石橋 治代 (52・53)
幹	事	秋山 絵 操 (14・15)	幹	事	望月 ゆりか (03・04)	幹	事	岩崎 美 浪 (52・53)
幹	事	山田 真理子 (14・15)	幹	事	安田 ひとみ (03・04)	幹	事	竹内 厚子 (52・53)
幹	事	小野 順子 (14・15)	幹	事	西村 直子 (03・04)	幹	事	宮澤 正 江 (52・53)
幹	事	栗田 裕子 (15・16)	幹	事	宮本 久美子 (03・04)	幹	事	遠藤 豊 美 (52・53)
幹	事	河原崎朱里 (15・16)	幹	事	渡邊 真理子 (03・04)	幹	事	長谷川 規子 (52・53)
幹	事	田村 美沙子 (15・16)	幹	事	小澤 知子 (04・05)	幹	事	松川 順子 (52・53)
幹	事	植松 明 菜 (15・16)	幹	事	出口 幸子 (04・05)	幹	事	松崎 光 子 (52・53)
幹	事	荻島 宏 予 (15・16)	幹	事	井上 雅代 (04・05)	幹	事	中澤 小 雪 (53・54)
幹	事	渡邊 裕 未 (15・16)	幹	事	西岡 かおり (04・05)	幹	事	齋藤 裕子 (53・54)
幹	事	荒井 沙 織 (15・16)	幹	事	田村 美 保 (04・05)	幹	事	長田 智子 (53・54)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	吉 田 力 (44・45)	幹	事	川 久 有 紀 (22・23)	幹	事	宇 野 浩 吏 (16・17)
幹	事	長 倉 良 幸 (44・45)	幹	事	鵜 澤 ま ゆ か (22・23)	幹	事	星 野 成 幸 (16・17)
幹	事	三 枝 和 彦 (46・47)	幹	事	江 打 真 衣 (23・24)	幹	事	渡 邊 尚 (16・17)
幹	事	渡 辺 昌 宏 (46・47)	幹	事	諸 星 楓 (23・24)	幹	事	松 島 佳 奈 子 (16・17)
幹	事	勝 間 田 太 住 (47・48)	幹	事	朝 日 健 太 (23・24)	幹	事	中 西 麻 純 (16・17)
幹	事	天 野 寿 一 (48・49)	幹	事	大 木 史 恩 (23・24)	幹	事	増 島 清 美 (16・17)
幹	事	上 原 豊 和 (52・53)	幹	事	鈴 木 沙 羅 (23・24)	幹	事	萩 原 美 香 (16・17)
幹	事	西 家 勝 彦 (52・53)	幹	事	田 島 理 瑛 (23・24)	幹	事	平 川 綾 乃 (16・17)
幹	事	久 保 田 武 生 (52・53)	幹	事	深 谷 正 城 (23・24)	幹	事	綾 部 久 美 子 (16・17)
幹	事	埜 村 光 伸 (53・54)	幹	事	堀 佑 美 佳 (23・24)	幹	事	桑 山 理 沙 (16・17)
幹	事	勝 呂 千 明 (53・54)	幹	事	守 野 恭 介 (23・24)	幹	事	飯 田 泰 恵 (17・18)
幹	事	鈴木啓太郎 (54・55)	幹	事	須 藤 静 香 (24・25)	幹	事	石 川 裕 里 佳 (17・18)
国	際		幹	事	田 中 菜 絵 (24・25)	幹	事	田 中 沙 季 (17・18)
幹	事	川 口 智 彦 (54～57)	幹	事	石 井 さ く ら (24・25)	幹	事	堀 田 裕 貴 (17・18)
幹	事	斎 藤 聡 (54～57)	幹	事	伊 東 亜 珠 沙 (24・25)	幹	事	隅 田 優 美 (17・18)
幹	事	柳 川 浩 昭 (54～57)	幹	事	杉 山 亜 梨 沙 (24・25)	幹	事	岩 代 美 貴 (18・19)
幹	事	高 野 真 一 (54～57)	幹	事	成 田 安 実 里 (24・25)	幹	事	澤 谷 友 香 里 (18・19)
幹	事	諏 訪 部 健 (55～58)	幹	事	山 田 瑞 歩 (24・25)	幹	事	豊 田 彩 香 (18・19)
幹	事	小 松 徳 弘 (56～59)	幹	事	山 本 芽 生 (24・25)	幹	事	野 口 明 日 香 (18・19)
幹	事	平 野 雅 之 (56～59)	幹	事	竹 内 麗 (24・25)	幹	事	藤 井 里 奈 (18・19)
幹	事	福 田 勝 弘 (56～59)	幹	事	満 間 恵 子 (24・25)	幹	事	松 井 志 保 美 (18・19)
幹	事	宇 田 隆 康 (56～59)	幹	事	天 野 真 由 香 (25・26)	幹	事	福 島 健 嗣 (18・19)
幹	事	山 本 宏 治 (57～60)	幹	事	恩 田 剛 弥 (25・26)	幹	事	秋 山 海 (18・19)
幹	事	三 浦 仁 (57～60)	幹	事	齊 藤 花 衣 (25・26)	幹	事	廣 江 亜 佐 美 (18・19)
幹	事	森 田 克 彦 (58～61)	幹	事	中 川 歩 (25・26)	幹	事	富 井 映 里 (19・20)
幹	事	佐 上 菊 二 (58～61)	幹	事	駒 形 亜 海 (26・27)	幹	事	中 安 美 咲 (19・20)
幹	事	小 塚 敏 久 (58～61)	幹	事	中 嶋 千 里 (26・27)	幹	事	藤 井 ゆ り か (19・20)
幹	事	横 溝 泰 蔵 (59～62)	幹	事	大 島 由 樹 (26・27)	幹	事	伊 藤 靖 子 (19・20)
幹	事	池 尻 敏 広 (59～62)	幹	事	加 藤 早 織 (26・27)	幹	事	三 宅 ひ と み (19・20)
幹	事	土 田 洋 二 (60～63)	幹	事	高 橋 美 帆 (26・27)	幹	事	青 木 裕 也 (20・21)
幹	事	桑 原 健 治 (60～63)	幹	事	宮 澤 理 紗 (26・27)	幹	事	小 林 可 南 子 (20・21)
幹	事	木 俣 か お り (61～01)	幹	事	長 橋 侑 希 (26・27)	幹	事	石 政 未 希 (20・21)
幹	事	増 原 伸 一 (61～01)	幹	事	橋 本 華 奈 (27・28)	幹	事	岩 井 友 紀 (20・21)
幹	事	犬 塚 重 暁 (63～03)	幹	事	鈴 木 麻 友 (27・28)	幹	事	澤 木 心 美 (20・21)
幹	事	野 口 厚 (63～03)	幹	事	大 箸 理 沙 (27・28)	幹	事	杉 本 愛 季 (20・21)
幹	事	藤 田 隆 (63～03)	幹	事	鈴 木 瑠 菜 (27・28)	幹	事	西 原 萌 恵 (20・21)
幹	事	廣 岡 達 郎 (01～04)	幹	事	福 島 真 由 (27・28)	幹	事	高 橋 千 恵 (20・21)
幹	事	齋 藤 実 (01～04)	幹	事	西 村 早 織 (28・29)	幹	事	市 川 佳 夏 子 (20・21)
幹	事	佐 藤 淳 悦 (01～04)	幹	事	渡 部 も も (28・29)	幹	事	青 木 萌 子 (21・22)
幹	事	高 橋 博 樹 (01～04)	幹	事	青 木 小 百 合 (28・29)	幹	事	長 田 知 郁 (21・22)
幹	事	長 谷 川 哲 夫 (01～04)	幹	事	新 井 は る か (28・29)	幹	事	清 水 遥 (21・22)
幹	事	村 上 東 洋 男 (01～04)	幹	事	原 田 夏 実 (29・30)	幹	事	時 吉 結 巳 (21・22)
幹	事	須 田 啓 一 郎 (01～04)	幹	事	勝 又 早 菜 (29・30)	幹	事	湯 山 菜 名 (21・22)
幹	事	椿 昌 寛 (01～04)	幹	事	八 木 勇 紀 (29・30)	幹	事	矢 田 さ き (21・22)
幹	事	南 敦 子 (02～05)	幹	事	植 松 あ い か (30・01)	幹	事	加 藤 祥 子 (21・22)
幹	事	門 脇 正 明 (02～05)	幹	事	鈴 木 翔 悟 (30・01)	幹	事	小 見 山 伊 代 (21・22)
幹	事	藤 原 誠 吾 (02～05)	幹	事	鈴 木 希 久 枝 (30・01)	幹	事	山 下 あ ゆ (21・22)
幹	事	前 田 智 也 (02～05)	幹	事	板 橋 裕 也 (01・02)	幹	事	小 嶋 絵 梨 花 (21・22)
幹	事	坂 井 利 彰 (02～05)	幹	事	三 宅 真 由 (01・02)	幹	事	桑 原 里 沙 (22・23)
幹	事	小 田 純 子 (02～05)	幹	事	青 野 天 海 (01・02)	幹	事	小 原 美 妃 子 (22・23)
幹	事	田 辺 裕 司 (02～05)	工	科		幹	事	塩 谷 彰 子 (22・23)
幹	事	田 松 正 樹 (02～05)	幹	事	宮 下 正 俊 (39・40)	幹	事	朝 比 奈 涼 子 (22・23)
幹	事	西 岡 昌 仁 (02～05)	幹	事	菅 沼 弘 (39・40)	幹	事	篠 原 莉 那 (22・23)
幹	事	鎌 田 文 一 (02～05)	幹	事	土 屋 貞 明 (42・43)	幹	事	奈 良 彩 夏 (22・23)
幹	事	沼 尻 正 則 (03～06)	幹	事	渡 辺 清 (42・43)	幹	事	原 賀 あ か り (22・23)
幹	事	若 松 は る か (03～06)	幹	事	赤 地 哲 也 (42・43)	幹	事	渡 邊 愛 菜 (22・23)

役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)	役	職	氏 名 (在学年度)
幹	事	橋 本 康 弘 (20~23)	幹	事	拓植由美子 (12~15)	幹	事	三 宅 大 介 (03~06)
幹	事	張 替 祐 介 (20~23)	幹	事	豊永有美子 (12~15)	幹	事	清 水 建 (03~06)
幹	事	山 下 昌 志 (20~23)	幹	事	原 順 子 (12~15)	幹	事	小 塚 達 郎 (03~06)
幹	事	本 田 怜 央 (20~23)	幹	事	小 澤 有 礼 (12~15)	幹	事	紅林美智子 (03~07)
幹	事	小 林 訓 史 (21~24)	幹	事	大 野 達 男 (12~15)	幹	事	佐 藤 治 夫 (04~07)
幹	事	白 滝 成 美 (21~24)	幹	事	太 田 孝 一 (13~16)	幹	事	千 野 琢 磨 (04~07)
幹	事	茂 木 宏 之 (21~24)	幹	事	山 川 利 雄 (13~16)	幹	事	渡 辺 将 之 (04~07)
幹	事	松 山 直 弘 (22~25)	幹	事	浅 野 雄 介 (13~16)	幹	事	杉 山 文 予 (05~08)
幹	事	大 門 由 佳 (22~25)	幹	事	本 多 加 奈 (13~16)	幹	事	江 島 照 美 (05~08)
幹	事	石 川 雄 大 (22~25)	幹	事	山 本 彩 子 (13~16)	幹	事	室 伏 寛 美 (05~08)
幹	事	牧野竜太郎 (23~26)	幹	事	相 見 大 輔 (13~16)	幹	事	田 尻 美 三 (05~08)
幹	事	堀川未来夢 (23~26)	幹	事	板橋紗綾香 (13~16)	幹	事	青 木 徹 (05~08)
幹	事	中尾光太郎 (24~27)	幹	事	武 田 泰 弘 (13~16)	幹	事	大 嶽 龍 一 (05~08)
幹	事	本 間 淳 博 (24~27)	幹	事	浅石友里子 (13~16)	幹	事	室 伏 太 郎 (05~08)
幹	事	佐 野 佑 太 (24~27)	幹	事	渡 邊 頌 子 (13~16)	幹	事	明 石 浩 一 (05~09)
幹	事	高 橋 義 典 (24~27)	幹	事	大谷津高章 (13~16)	幹	事	今 川 慶 (06~09)
幹	事	柿 沼 友 哉 (24~27)	幹	事	河野奈津子 (14~17)	幹	事	田 中 智 康 (06~09)
幹	事	前原唯之介 (24~27)	幹	事	脇 田 千 草 (14~17)	幹	事	久 芳 仁 (06~09)
幹	事	秋 間 一 樹 (25~28)	幹	事	綱 島 昇 (14~17)	幹	事	植 松 信 二 (06~09)
幹	事	松 原 大 輔 (25~28)	幹	事	塚 田 泰 章 (14~17)	幹	事	小 林 寿 成 (07~10)
幹	事	石 川 裕 也 (25~28)	幹	事	杉町カウエ (14~17)	幹	事	斉藤美根子 (07~10)
幹	事	阿久津未来也 (25~28)	幹	事	小 川 淳 (14~17)	幹	事	瀬瀬健太郎 (07~10)
幹	事	仲 萌菜実 (26~29)	幹	事	内 村 彩 (14~17)	幹	事	佐 竹 篤 (07~10)
幹	事	嘉 代 誠 (26~29)	幹	事	渡 邊 賢 治 (14~17)	幹	事	川 野 梨 恵 (07~10)
幹	事	坂 本 早 穂 (26~29)	幹	事	勝 又 勇 旭 (14~17)	幹	事	正 木 創 一 (08~11)
幹	事	小 野 勇 太 (26~29)	幹	事	井 出 知 里 (15~18)	幹	事	井 上 善 史 (08~11)
幹	事	武 藤 航 至 (26~29)	幹	事	井 所 博 志 (15~18)	幹	事	登ヶ谷祐人 (08~11)
幹	事	野間口 健 (26~29)	幹	事	小 倉 宏 紀 (15~18)	幹	事	金 子 浩 二 (08~11)
幹	事	山 本 大 樹 (26~29)	幹	事	宮 腰 治 憲 (15~18)	幹	事	内 田 修 (08~11)
幹	事	橋 本 竜 摩 (26~29)	幹	事	板 谷 侑 樹 (15~18)	幹	事	成 田 哲 浩 (09~12)
幹	事	田 畑 祐 梨 (26~29)	幹	事	田野口皓太 (15~18)	幹	事	井上美由紀 (09~12)
幹	事	井 上 和 也 (26~29)	幹	事	菅家奈都美 (15~18)	幹	事	井 上 明 子 (09~12)
幹	事	星 野 陸 也 (27~30)	幹	事	藁 谷 和 正 (17~18)	幹	事	高 塚 瑞 希 (09~12)
幹	事	大 澤 和 也 (27~30)	幹	事	岩井小百合 (16~19)	幹	事	斉 藤 真 規 (10~13)
幹	事	上 原 隼 人 (27~30)	幹	事	鈴 木 弘 明 (16~19)	幹	事	長 岡 福 也 (10~13)
幹	事	松 岡 慶 樹 (27~30)	幹	事	黒 子 佳 恵 (16~19)	幹	事	筒 井 靖 子 (10~13)
幹	事	鈴 木 彩 音 (27~30)	幹	事	大森未奈子 (16~19)	幹	事	杉 山 祥 啓 (10~13)
幹	事	岡 部 星 輝 (27~30)	幹	事	笠 倉 諒 (16~19)	幹	事	大津留真紀 (10~13)
幹	事	小 森 聖 也 (27~30)	幹	事	中 山 優 貴 (17~20)	幹	事	大 友 仁 美 (10~13)
幹	事	大 澤 和 也 (27~30)	幹	事	浅 井 啓 悟 (17~20)	幹	事	水 野 京 子 (12~13)
幹	事	小 澤 拓 馬 (27~30)	幹	事	芹 沢 崇 (17~20)	幹	事	田 崎 郁 子 (11~14)
幹	事	今 野 大 喜 (27~30)	幹	事	関 谷 紀 志 (17~20)	幹	事	土 元 夏 葉 (11~14)
幹	事	石 川 真 世 (28~01)	幹	事	長谷川孝洋 (17~20)	幹	事	竹腰真裕子 (11~14)
幹	事	中 川 幸 輝 (28~01)	幹	事	勝 呂 孝 (17~20)	幹	事	後 藤 暢 宏 (11~14)
幹	事	篠 田 宏 樹 (28~01)	幹	事	中 島 由 人 (17~20)	幹	事	竹 村 直 (11~14)
幹	事	青 木 伊 織 (28~01)	幹	事	笠原菜央子 (17~20)	幹	事	木下真由美 (11~14)
幹	事	石 川 和 樹 (28~01)	幹	事	古 山 結 子 (17~20)	幹	事	若 月 朋 子 (11~14)
幹	事	英 菜々子 (28~01)	幹	事	匹田映吏可 (18~21)	幹	事	齋 藤 久 美 絵 (11~14)
幹	事	柳 理 菜 (28~01)	幹	事	勝 又 智 子 (18~21)	幹	事	川 村 友 江 (11~14)
幹	事	山 下 鉄 平 (29~02)	幹	事	緒 方 義 明 (18~21)	幹	事	猪 狩 博 織 (11~14)
幹	事	表 谷 健 斗 (29~02)	幹	事	後藤奈津子 (18~21)	幹	事	山 下 政 幸 (11~14)
幹	事	井 上 悦 嗣 (29~02)	幹	事	祭 興 斌 (18~21)	幹	事	鈴 木 さ や 夏 (13~14)
幹	事	氏 家 美 里 (29~02)	幹	事	片 柳 健 太 (18~21)	幹	事	川 下 知 恵 (12~15)
幹	事	高 田 涼 太 朗 (29~02)	幹	事	木 佐 木 枝 里 (18~21)	幹	事	鹿 内 隼 人 (12~15)
幹	事	黒 岩 涼 汰 (29~02)	幹	事	久保田真未 (19~22)	幹	事	齋 藤 慎 亮 (12~15)
幹	事	林 健 太 (29~02)	幹	事	阿 部 裕 樹 (19~22)	幹	事	山 本 克 幸 (12~15)
幹	事	丹 羽 翔 子 (29~02)						

国際関係学部 校友会総会

令和三年七月三日(土)十五時三十分からみしまプラザホテルにおいて開催される予定でしたが、今般の新型コロナウイルスの感染リスク拡大の影響を鑑み、昨年度と同様中止とさせていただきます。また、令和三年六月五日(土)開催の常任幹事会及び幹事会で承認された、第二議事から第十二議事までを、会則第五章第十二条第三項に基づき総会承認議事としていたします。

議事

- 一 令和二年度事業報告
- 一 令和二年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和三年度事業計画に関する件
- 一 令和三年度予算に関する件
- 一 令和三年度新幹事に関する件
- 一 三島学園開設七十五周年記念事業に関する件
- 一 物産展実行委員会に関する件
- 一 ホームカミングデー実行委員会に関する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について
- 一 国際関係学部校友会役員等の正会員加入状況について
- 一 校友会会報(第五十二号)原稿依頼について
- 一 その他

一 令和二年度事業報告については、国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞は卒業生四名と在学生二名に授与された。授与式は卒業生及び在学生共新型コロナウイルス感染の影響のため中止となり賞状等郵送となった。各学科新入生に入学祝としてメタルクラフトを進呈しました。富校祭物産展並びにホームカミングデーはコロナ感染拡大防止のため中止となりました。

二 令和二年度決算報告については、決算額は各項目のとおりとなりその内容は校友会報発行費は印刷部数の増、入学記念品費は品目変更による増、通品運搬費は会報発送部数追加による増、予備費はコロナ感染予防消毒液を学部へ寄贈による増等が増額となりました。

◎会計監査については、藤本、木村両氏に令和三年四月二十六日に実施して頂いた。

三 令和三年度事業計画については、国際関係学部校友会会長賞及び優秀賞の推薦を始めとして入学記念品、常任幹事会・幹事会・総会の開催、物産展・ホームカミングデーの開催、箱根駅伝応援、銀杏並木清掃等前年度とほぼ同様の事業となる。

四 令和三年度予算については、令和二年度の決算額を基礎として継続して実施可能な事業を予算額として計上した。

五 令和三年度新幹事等については、役員変更として諏訪部昭子・斎藤千鶴子両幹事が常任幹事へ。新幹事として国際関係学部から山下鉄平以下八名、商経科同窓会から山本譲治以下七十一名、桜栄会から板橋裕也以下三名で計八十二名の新役員が増員される。

六 三島学園開設七十五周年記念事業については、本年度が周年記念年度となり検討委員会を設置して事業に当たりたい。検討委員として横山会長を委員長として宮下・濱田・山田・江本・平澤・弓場各副会長、田中幹事長、柴田・小早川・野中各顧問を委員として委嘱した。なお、第一回検討委員会は令和三年八月七日(土)に開催した。

七 物産展実行委員会については、委員長に横山会長、副委員長に田中幹事長委員として野中顧問、江本・平澤両副会長、塩谷・勝又・柴生田・西田・押見・日吉各常任幹事、田中・高梨両幹事にしたい旨提案された。また、推薦者がいればその都度委員会追加承認したい。

八 ホームカミングデー実行委員会については、委員長に横山会長、委員として田中幹事長、弓場副会長、平岩・久保田・高野各常任幹事、室伏幹事、柴田・小早川両顧問にしたい旨提案された。また、推薦者がいればその都度委員会追加承認したい。

九 国際関係学部校友会関係物故者については、令和二年七月から令和三年六月までに事務局に連絡を頂いた七名の会員を一覧表とした。

十 国際関係学部校友会正会員加入者名簿については、令和三年三月末日の国際関係学部校友会正会員加入者を本部校友会事務局から頂き一覧表にした。会長からのお願い文章も添付したので令和三年度も引き続き継続願いたい。また新規加入者大歓迎です振込用紙は必ず添付されています。

十一 会報(第五十二号)原稿依頼者としては、横山会長、弓場副会長、神戸・藤本両常任幹事、柴田顧問、吉田山形県副支部長の方々に原稿依頼をした。

校友会事務局からのお知らせ

◎銀杏並木歩道清掃作業

毎月 第四日曜日 午前九時から 約一時間程度

本校舎西側道路(県道号線)両側銀杏並木歩道清掃作業

集合場所 大学門入って右手

校友の皆様方ご参加をお待ちしております。

◎第七十一回富校祭

令和三年十月三十日・三十一日開催予定の富校祭は新型コロナウイルス感染拡大防止のため「富校祭HPウェーブ対応」に変更となり、十二月十八(土)・十九(日)両日動画発信されますのでご覧ください。

◎周年行事一覧

国際関係学部
創立五十周年記念事業
該年度 令和十一年度
国際関係学部校友会
三十周年記念事業
該年度 令和十三年度
日本大学創立一五〇周年記念事業
該年度 令和二十年

同窓会だより

国際関係学部同窓会

例年十月上旬に開催されます国際関係学部同窓会総会並びに懇親会ですが令和二年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み令和三年度も中止とさせていただきます。



「桜栄会会員の皆様へ」



桜栄会会長

平澤 佳代子

コロナ禍の中、桜栄会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。なかなか収束のみえない状況に心痛めることも多いことかと思えます。

さて、二〇〇五年に日本語の『もったいない』が見直され環境問題の合言葉になってから一〇年、今はSDGs(エスディーズ)持続可能でよりよい世界を目指す国際目標へと進化しました。二〇一六年から二〇三〇年の二五年間で達成できるように策定されたものです。が、これまでに言葉は聞いたことがありますが、家庭においても、仕事場でも、自分ごととしてきませんでした。仕事場では、SDGsを取り入れた事業をしましょうと言われていたにも係わらずです。聞きかじっただけだと何をどうすればよいかわからず動けなかった。それは、知ろう、解ろうとしてこなかったからです。ウェブで検索すれば、あつという間に答えが見つかるのに。

SDGsは、国連加盟国が全会一致で採択された「Transforming Our World(我々の世界を変革する)」という正式文書の一部に記載されている手段で、自分自身が

「変化」にとどまらず、いかに『変革』『変容』できるかが、カギになるようです。

コロナ禍では、日々のことに囚われて世界のことを目を向けるなどと考えられないと思われるかもしれませんが、自分は世界の入り口と捉え、一つでもよいので、二七の目標を達成できる行動をしていきたいと思います。

まず、一〇月は、飢餓や食料問題を考える「世界食料デー」月間です。「もったいない」を減らす、家庭内の食品ロスを減らすことから始めてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、「昔ながらの、あたりまえを大事にする」「もったいないもそのひとつ、早寝早起き、言葉遣いを丁寧に、きちんとした挨拶など、毎日を大切に生きていることで、コロナ禍に立ち向かうことが出来る身体が作られます。心丈夫にして、この一年を過ごしていきたいと思います。早くすべての年代の方々が一堂に会し、互いに 有意義な情報交換ができる日を願って、ご挨拶と致します。………

「コロナ禍に思うこと」

日本大学短期大学部
食物栄養学科教授 学科長
高橋 敦彦

校友会、桜栄会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこ

ととお慶び申し上げます。東洋では太陰太陽暦で暦日と季節を合わせるために設けられたとする二十四節気の文化があります。暦を見ずとも時が来れば木々は芽吹き、花は咲き、鳥は囀り、虫は飛び、果実は実を結んでいます。日本国民は古来、季節ごとの行事のご馳走、旬の食材を食卓に並べ、同じ食材でも調理法や器を変えるなど、生活の中で自然・季節を粹に味わってきました。このコロナ禍でも調理系の実習では少しでも季節感の感じられるメニューを取り上げています。

一年間の延期、数多くの制約を余儀なくされた東京二〇二〇オリンピック競技大会は八月八日に幕を閉じ、パラリンピックも開催するに至りました。大会前には、大量の食品廃棄があるという、驚くような報道があり、緊急事態宣言下の開催に世論は批判的でしたが、一方で海外選手に示した日本の一般市民のホスピタリティ、選手村レストランの美味しい食事提供、制約下で自動販売機やコンビニエンスストアを楽しむ関係者の様子などの微笑ましい報道もありました。東京五輪は無観客で行われた競技が多かったとはいえ、選手と関係者数万人が海外から来日したにもかかわらず、COVID-19の大きなクラスターは発生しませんでした。一方、新型コロナウイルス感染症流行に伴い市民生活の制限が続き、残念なことに人が集う数多くのイベントは中止されています。昨年、私共が「実験実習への新型コロナウイルス感染症拡大対策マニュアル」を策定し、可能な限り対面授業を行う方針で取り組んでいること

をご報告申し上げました。大学では学校行事や部活動の大幅な縮小、制約が続いていますが、可能な限り対面授業を行うべく取り組んでいます。これは大学執行部の先生方、そして全部署の関係各位の多大なご協力の賜物によりますことを感謝申し上げます。

今年度の校外実習では、新型コロナウイルス対策として受け入れ施設から①ワクチン接種、②PCR検査陰性証明書の提示などの求めがあり、新たな対応を行っています。当初、ワクチン接種を希望する学生は七割程度にとどまっていた。ワクチン接種はあくまで任意ですが、接種しないとした学生にその理由を聞いてみると、「不妊になる」など、SNSの情報や学生間の口コミによる科学的裏付けに乏しい情報により意思決定をしていることがうかがえました。種痘が普及し始めた幕末の日本でも、「種痘を受ける」と牛になる「などのデマが蔓延し、種痘普及を大いに妨げた」とのことです。から、IoTの発達した現代ではデマの拡散は幕末の比ではないと考えます。私たちは学生に対し、ワクチン接種の重要性を機会あるごとに伝え、信頼性が高いと考えられる厚生労働省などの公的機関からの新型コロナウイルス感染症やワクチンの情報を自ら入手し、その情報をもとに自ら考えて接種するかどうか決めるように繰り返し促しました。そのことが奏功したのかはわかりませんが、結果的に九割以上の学生がワクチン接種を希望し、あらためて健康情報リテラシーの大切さを実感しました。何かと制約の多い毎日ですが、

この状況が一日も早く解消され平穏な日々が戻りますよう、皆様のご健康を祈念申し上げます。………

「大学FD
(Faculty Development)
活動について」日本大学短期大学部
食物栄養学科准教授
石川 元康

大学では感染症の影響で、昨年からおオンライン授業が行われています。食物栄養学科、専攻科食物栄養専攻では、実験・実習科目があるため、二部の授業は対面形式で行われていますが、感染症対策により教育環境が大きく様変わりしています。このような教育環境の変化の中で改めてFD活動が注目されており、ここでは私が学内の委員会を担当しているFD活動についてご紹介したいと思います。

皆様はFDという言葉をご存知でしょうか。FDはFaculty Developmentの略で、Faculty：大学の学部等の教員組織や教員集団を指し、development：能力開発を意とし、「授業内容・方法等をはじめとする研究や研修を大学全体として組織的に行うこと」を意味します。日本大学ではFDを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位(学科・専攻等)での教

育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しており、「学生の参画を得ながら」というところが特徴的な活動となっています。

良質な教育に求められる教員の資質として、学問分野の最先端の知識、教材を使いこなす能力、学生とのコミュニケーション力、情報伝達能力、よく学生の面倒を見ること等が挙げられており、教員の資質を発展させるFD活動が必要とされています。日本大学における教育改革では「学生が何を学び、何ができるようになったか」というアウトカム基盤型への転換がはかられており、その一環としてFD活動が行われています。例として、全学部の学生・教員・職員が一堂に会してFDや本学の教育について語り合う「日本大学学生FD CHAmmit(ちゃみっと)」という活動があります。また、新任教員が教育力向上の担い手となることを目的として「新任教員FDワークショップ」を開催しています。その他、オンライン授業の事例紹介やZOOM社による講習会等を実施し、教員の教育力向上をサポートしています。

数十年前に比べるとITを駆使して教育システムが大きく改善し、大学の授業は理解し易いものとなっていると思います(私が学生時代、多くの授業は教員側が一方的に教え、自学自修というスタイルが一般的であつたため、理解するまでに多くの時間を要していましたが…)。オンライン授業の継続によって、学習効果の検証、オンライン化に伴う学生達の心身の健康維持等に注意すべき点がまだ残されていますが、FD活動が解決のヒントとなるよう尽くしたいと思っております。

ます。大学の教育改革の進展により、様々な学びの環境が整備されています。皆様方の周囲に栄養士・管理栄養士を目指そうとしている方、社会人でキャリアアップ目指している方がいらつしやいましたら、本学食物栄養学科や専攻科食物栄養専攻への進学をお声掛けして頂けると幸いです。

「Connecting the dots」 (点と点を繋ぐ)



専攻科・十八期
高橋 美帆

桜栄会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、平成二十九年度に専攻科食物栄養専攻を修了した高橋美帆です。卒業後は静岡大学の大学院修士課程(農学)に進学し、令和二年四月よりキンホールディングス株式会社にて健康を考えた酒類の研究開発を行なっています。

在学時はゼミの指導教授であつた太田先生のご指導の元、タンパク質からなる生分解性フィルムの研究を行なりました。日本食品科学工学会での学会発表や論文投稿を経験させていただき、濃密な四年間を食栄で過ごしました。現在も太田先生とは、近年の感染状況を鑑みてオンラインではありますが、

時々近況報告や、太田ゼミ同窓会の幹事をさせていただいております。

さて今回はこの場をお借りして、ステイプ・ジョブズの伝説のスピーチにも挙げられた「Connecting the dots」(点と点を繋ぐ)という言葉についてご紹介させていただきます。これはスタンフォード大学の卒業式で語られた言葉です。

皆さんは、時には無駄に感じるような事、大変な苦労などをどのように捉えているでしょうか。実は私は小学校・高校まで、波はありながらも体調を大きく崩した時期がありました。食栄入学当初も進路に葛藤がある中、これで良いのかな?と不安が多い毎日でした。当時の私は体調のこともあり、人生遠回りしたような気分だったのです。そのような中、短大入学当時担任だった神戸先生の言葉に救われ、勉強もゼミも「Stay hungry」の気持ちで進めていきました。

詳細は割愛しますが、目標に向かって邁進した結果、体調を崩した経験も、不安だった大学のスタートも、社会人になった「今」へ繋がって活かすことができている。例えば体調を崩した経験は、今研究テーマにしている「健康」に興味を持つきっかけになりました。また専攻科で緊張の中チャレンジしたオールでの学会発表は、社内での研究報告する際にも役立つています。

つまり、「Connecting the dots」の言葉のように、辛い経験も(また、無駄なように大好きな何かが)のめり込むことも!何もかもが「今」の自分にとっては「点と点で」つながっていることを痛感しています。そして私のその点には、必ず、友人や先生方との出会いと支えがあつたようにも思います。

この先も勿論楽な道だけではない

いでしようが、険しい道にもポジティブにチャレンジしながら、人々の健康を願って、ワクワクしながら研究開発を続けたいと思います。仕事もプライベートも含め「今を楽しみ」大切に「過」ごしたいです。

最近は何かと多く不便もあり

「食物栄養学科で学んだこと」



専攻科・二十一期
青野 天海

私は令和三年四月から食物栄養学科の助手(臨時職員)として赴任しました。今年度は調理学基礎実習、食品学実習、食品衛生学実習、給食経営管理実習(本実習)の補佐を担当しています。

私は高校時代バスケットボール部に所属していましたが、当時、自分の身体は運動してもなかなか筋肉がつかず、どうしたらバスケットボール選手に相応しい体格になるのかと悩んでいました。そんなとき栄養士の方にお会いする機会があり、スポーツ選手に必要な食事・栄養について色々教えていただきました。それ以来、食事がスポーツに重要な関わりを持つ

ていることを知り、栄養学について深く学びたいという思いから平成二十九年四月に食物栄養学科に入学しました。

高校時代は文系のクラスだったこともあり、食栄に入学後はほとんどが理系の教科ばかりで授業についていくのも大変で、実験実習や課題レポートに追われる日々を過ごしていました。私は大学でもバスケットボールに入学し、時にはバスケットで気分転換をしながら、課題をこなしていました。またバスケットボール部を通して国際関係学部の友人や、食栄でも一緒に勉強を頑張れる友人がたくさんでき、それなりに大変でしたが充実した日々を過ごすことができました。

大学生活の中でも私が一番良い経験をさせていただいたと思うのは、短大二年次の夏期休暇中に行われた校外実習です。私は事業所と病院に行かせていただきましたが、どちらも給食を提供するという仕事は同じですが、実際に現場へ入ってみると事業所と病院では役割が全く違うことが分かり、とても良い経験をさせていただきました。特に病院実習では管理栄養士の先生方や厨房で働く栄養士の皆さんに大変お世話になり、一週間という短い実習期間でしたが、とても実のある実習を受けさせていただきました。

短大で二年間学んだ後、もともと栄養学について応用を学びたい、管理栄養士を目指すという考えを決めました。専攻科一年生の時にはゼミの指導教授である高橋敦彦先生の下で、一年先輩の研究テーマである女子大学野球選手に対する栄養指導後の効果に関する研究のお手伝いをさせていただきました。専攻科二年生に

なると私自身の研究テーマもスポーツに関わる研究を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により希望通りの研究を行うことができなくなり論文のテーマに悩みました。しかし、高橋先生から新型コロナウイルスに関わる研究を行ったらどうかというアドバイスをいただき「新型コロナウイルス感染症流行下における大学生の生活習慣、食物摂取頻度と身体計測値の調査」という研究を行いました。前例が少ない研究であつたため、本当に論文が完成するか不安でしたが、高橋先生や助手の方々にご支援いただいたお陰で何とか書き終えることができました。

現在は食栄の助手として、自分の後輩にあたる学生の皆さんのサポートを精一杯努力していきたいと思っております。また一年後に受験予定の管理栄養士国家試験に向けて勉強を頑張り、将来は目標であるスポーツ栄養に関わる仕事に就くことができたらと考えています。

「学びの四年間」



専攻科・二十一期

望月 柚希

私は平成二十九年年度に食物栄養学科に入学し、四年間仲間と共に様々なことを学びました。幼少

期から料理やお菓子作りが大好きであつたことから、私が作つた料理で笑顔になつてもらいたいという思いで料理に関係する進路を考えるようになり、また高校の担任の勧めや妹が幼少期から病弱であつたこともあり、単に美味しい料理を作るだけでなく、栄養バランス等が考えられた食事を提供し、日々の健康をサポートする栄養士という職業に強く興味を持つようになり、栄養士資格を取得することができた食物栄養学科への進学を決めました。

入学後、自宅から大学まで約一時間かけての電車通学、実験実習のレポート等初めてのことが多く、慣れるまで時間がかかりました。授業やレポートに慣れ始めたころ、さらに栄養士としての知識を深めたいと思い、専攻科に進学することになりました。専攻科への進学と同時に始まつたゼミ活動は、この四年間で最も有意義な時間だつたと感じています。短大時代にもゼミ活動はできたものの時間に余裕がなく、専攻科の二年間のみゼミ活動を行いました。

私が所属した太田ゼミでは、タンパク質の応用研究を二年間かけて行いました。毎回実験が上手くいくとは限らず、失敗した原因の探究、今後の実験スケジュール管理、参考文献探しと、忙しい毎日を通しました。このとき自分の研究の他に外部の方との共同研究も行つていたため、二つの実験において成果を出す必要がありました。限られた時間の中で効率的に実験を進めるにはどうしたらいいのかを常に念頭に置き、実験を進めました。この四年間、調理実習はもちろん、動物の解剖実験やタンパク質の反応実験等、さまざまな実験実習を経験させていただきました。し

かし、この四年間いつも私が作つた料理で笑顔になつてもらいたいという思いは変わりませんでした。そのため卒業後は委託栄養士として保育園で働くことを決め、現在は子供達に毎日美味しい給食を作っています。新型コロナウイルスの影響で直接園児たちが食べている様子や反応を見ることができない状況ですが、廊下ですれ違った時に、給食おいしかったよと、笑顔を見せながら話す様子を見て、栄養士という職業に出会うことができて良かったと思いました。

「大切な宝物」



食物栄養学科・五十六期

地引 捷人

「もし時間を戻すことができるとしたら、いつに戻りたいですか?」と聞かれたら、私は迷わず「日大食栄で学んでいた時代」と答えます。

小学生の頃から和菓子職人になるのが夢だつた私は、高校生のとき進路について色々考えた結果、栄養士免許と製菓衛生師の受験資格が取得可能な日大食栄への進学を決めました。当時の私は製菓衛生師をメインに考え、栄養士は「せつ

ただ、調理の授業で学んだ中心温度の測定やアレルギーに関する知識、実習で学んだ離乳食の知識等、現場では当たり前のことがほとんどです。また、専攻科のゼミ活動を通して学んだ効率的に作業を行う方法やスケジュールの立て方等は社会人になつた今も活用できることが多く、学生時代、必死に頑張つてよかったな...と感じています。

意義な時間を過ごすことができました。短大二年生の時、初めて栄養教諭として働く卒業生の方からお話をうかがう機会がありました。それまで自分の中で栄養士の仕事は病院や事業所などの施設で働くイメージが強かつたので、学校や保育園などで子どもを相手にする仕事について興味が湧き、将来は学校栄養士として働いてみたいと思うようになりました。それまで食栄の卒業生で学校栄養士の試験を受験した前例は少なく、分からないことも多かつたのですが、先生方からアドバイスを受けながら試験勉強を進めていき、無事に現役合格することができました。

学校給食は子ども達に安全で安心な給食を安定供給し、栄養についても管理していくことが必要になります。それ以外にも、旬の食材や地場産物、行事食を織り交ぜた献立を子供たちが楽しみにするよう、考え、これらの給食も教材と活用しながら食育も行います。

短大時代に学んだ知識や技能を実際の現場で使う機会は頻繁にあり、もつとあの時先生方に質問しておくべきだつたと思うこともよくあります。また短大時代の大切な友人達とは今でも交流があり、二年間という短い期間ではありましたが本当にたくさんの宝物を手に入れることができました。学校に毎日当たり前に通う子ども達が当たり前に食べ、楽しみにできるような給食を作れるように、辛い時には短大時代のことを思い出しながら頑張つていこうと思います。

短大時代に学んだ知識や技能を実際の現場で使う機会は頻繁にあり、もつとあの時先生方に質問しておくべきだつたと思うこともよくあります。また短大時代の大切な友人達とは今でも交流があり、二年間という短い期間ではありましたが本当にたくさんの宝物を手に入れることができました。学校に毎日当たり前に通う子ども達が当たり前に食べ、楽しみにできるような給食を作れるように、辛い時には短大時代のことを思い出しながら頑張つていこうと思います。

桜栄会の皆様へ

桜栄会の皆様には、日頃から食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻の教育活動にご理解とご協力を賜わり、心から感謝申し上げます。

さて、今日少子化が進む中、大学への進学希望者は年々減少し、特に短期大学への進学者数は目に見えて減ってきており、本学科も、大変厳しい状況が続いております。幸いにも本学科は、専攻科を開設し、四年制大学と同等の教育や学士（栄養学）の取得、さらに大学院への進学も可能であり、一定の教育水準を維持しています。歴史と伝統を有する本学科の維持・発展を期して、日々の教育・指導に一層努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。なお、栄養士資格の取得を希望される受験生や社会人の受験生がおられましたら本学をご案内いただければ幸いです。管理栄養士を目指す学生の専攻科進学を勧めておりますが、近年では社会人になられた卒業生も、専門的知識や技術を習得し、管理栄養士を目指して本学専攻科に入学されています。また、平成二十三年度より、管理栄養士国家試験対策室を立ち上げ、サポート体制を整備し、合格者を増やしています。なお、下記製菓衛生師コースは他校に比べ安価（一年間十五万円、二年間で国家試験受験資格取得）ですが、しっかりした指導体制で毎年多くの学生が国家試験に合格しています。これは通信制ですので、大学へは、年二回のスクーリングのみの参加です。卒業生の方もチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

管理栄養士国家試験対策講座からのお知らせ

第三十六回の管理栄養士国家試験は二月二十七日と昨年と同様一週間早く行われます。今年はコロナ禍で校内への立ち入りが制限されているので受講希望状況を見ながらZoomを使った対策講座を五月から開催する予定です。時間は六十分から九十分程度で週一回くらいを目安に開講を検討しています。卒業後仕事と並行しながら勉強するには継続した学習習慣が必要だと考えます。合格のためには過去問題集一冊を少なくとも三回は解くことが大切です。そのため、問題集は女子栄養大学の「受験必修過去問集」を使用しますのでご注意ください。受講を希望される方は食物栄養学科研究室へお問い合わせください。なお、講座にあわせて模試も大学単位で申し込みをします。随時、講座には参加できます。試験までの追い込みをがんばろうと思っている方はぜひご参加ください。



学科で卒業生も取得できる資格

《製菓衛生師（国家試験受験資格）》

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻では、茨城県にある「つくば栄養医療調理製菓専門学校」との連携で、製菓衛生師国家試験受験資格を取得できる通信教育課程を開設しております。製菓衛生師とは、製菓・製パン業務に就く際に取得していることが望ましい唯一の資格で、食に関する資格の中でも人気の高いものです。本学では、二年間の在学中に、通信学習（月一回の課題提出）、夏季と春季のスクーリング（各五日）および指導校研修（一日）により効率的に修得できます。毎年四月から開講します。

《介護職員初任者研修》

介護職員初任者研修は、旧ホームヘルパー二級に該当します。訪問介護員とも呼ばれ、高齢者や心身障害者などの身体の介護や家事サービスを提供し、自宅での自立を支援します。厚生労働省が指定する講座を修了することで修得でき、高齢化社会を迎えニーズの高い資格です。本講座はニチイ学館と連携した本学科単独の通信講座で、食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻を対象にカリキュラムを編成し、開講します。

「フードアナリスト」四級・三級

フードアナリストは、世界各国の食文化や食空間の演出法、テーブルマナーや食育など、「食」に関するあらゆる知識・教養を幅広く学び、食の事ならば何

を聞かれても解説できる、何を依頼されても執筆できる「食情報のスペシャリスト」を育成する為の資格です。幅広い知識を身に付けたフードアナリストは、様々な分野で活動し、その活躍が多くのメディアで注目されています。本学にて一日の受講（含む認定試験）で四級の資格が取得可能です。今年度は二月に開講予定です。また、四級の資格を取得した者は、三級受験資格があり、希望者が集まれば本学にて二日間の受講で取得可能です。

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻専任教員&助手紹介

《専任教員》

学科長 高橋 敦彦（病理学・疾病学）
教授 太田 尚子（食品学）
教授 上田 龍太郎（生物学）
准教授 石川 元康（情報処理演習・公衆衛生学）

准教授 篠原 啓子（栄養教育論）
准教授 葛城 裕美（給食経営管理論）
助教 安西 なつめ（解剖生理学）
助教 柿崎 博美（栄養学）

《助手》

助手 竹内 麗（専攻科・十四期）
助手 佐々木里緒（専攻科・十七期）
助手 田畑 礼子（専攻科・十八期）
助手 青野 天海（専攻科・二十二期）

お問い合わせは、食物栄養学科研究室
TEL・・・〇五五―九八〇―〇八四〇
FAX・・・〇五五―九八〇―〇八四六
E-mail:trakahashitsuhiko@nihon-u.ac.jp

日本大学国際関係学部校友会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在学生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 若干名
- 幹 事 長 1名
- 常任幹事 若干名
- 幹 事 若干名
- 会計監査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員の選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事は各科同窓会代表幹事とし、常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。
- 5 幹事は国際関係学部校友会表彰者或は各科同窓会会長から推薦し、幹事会に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員の職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。

3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。

3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。

4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。

幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。

5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。

3 事業計画に関する事項。

4 予算・決算に関する事項。

5 会長の選任に関する事項。

6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9章 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

2 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。

3 校友会の秩序を乱したとき。

4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成23年8月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65 支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(18部会)

本部大学院・法・文理・経済・商・芸術・国際関係・危機管理・スポーツ科・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(5部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会・桜門社長会

桜 門 会

海外特別支部(9支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・ニューヨーク・インドネシア・ミャンマー

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部・ビジネス教養)
桜栄会(栄養・家政・食栄・生活・専攻科)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会